ネットワーク機器
統合管理システム
FSV-MGR01

ユーザーズマニュアル

Ver. 1.3

目次

1 はじめに

1.1 本マニュアルに関して

本マニュアルはネットワーク機器統合管理システム「FSV-MGR01」(以下、本システム)に基づいて作成されています。
本システムのバージョンは予告なく変更される事がありますので、ご使用になるバージョンにご注意ください。

本書 Ver	FSV-MGR01 ソフトウェアバージョン
1.3	1.3.*

※ 「*」はパッチバージョンの数字が入ります。

1.2 注意事項

本マニュアルの記載内容は、改訂等により予告なく変更される場合があります。
本マニュアルに記載された内容のご使用に関して、第三者が所有する知的財産権その他の権利侵害や損害発生に対し、当社は責任を保証するものではありません。
本マニュアルに記載の内容を弊社に無断で転載または複製することを禁止します。

1.3 対応製品

本システムに対応している FXC 製品は以下の通りとなります。

製品カテゴリ(シリーズ)	製品型番	本システムでの製品呼称	対応バージョン	備考
無線 LAN ルータ/アクセスポイント (AE シリーズ)	AE5411PA	AE5411PA	1.21 以降	
	AE1041-ai AE1041PE-ai AE1051-ai AE1051PE-ai AE1050PE-ai	AE1041/51		
レイヤ 2 スイッチ	FXC5210 FXC5210PE FXC5218 FXC5218PE FXC5224 FXC5224PE	FXC5200 Series	1.00.16 以降	
レイヤ 2+スイッチ	FXC6552 FXC6528	FXC6500 Series	2.3 以降	スタック対応
	FXCX5512PE	FXCX5512PE	3.02.410 以降	
レイヤ 3 スイッチ	FXC9432	FXC9432	2.3 以降	スタック対応
	FXCX9526F	FXCX9526F	3.0 以降	スタック対応

記載のないネットワーク製品に関しても、本システムにてネットワーク機器としてデバイスの登録、及び死活監視は可能ですが、一部機能において非対応となるケースがあります。

	本システムでの製品呼称
OA 機器(PC 等)・ネットワーク機器 など IP アドレスを持つネットワーク製品	Other

製品シリーズ毎の各機能の対応は「機能別対応表」をご参照ください。

1.4 機能別対応表

機能名称	AE5411PA AE1041(PE)-ai AE1051(PE)-ai AE1050PE-ai	FXC5210(PE) FXC5218(PE) FXC5224(PE)	FXC9432 FXCX9526F FXC6552/28 FXCX5512PE	その他 PC 端末 NW 機器 など
▼共通機能				
デバイス追加	○	○	○	○
デバイス自動検出	○	○	○	○
インポート / エクスポート	○	○	○	○
死活監視	○	○	○	○
▼ツール				
TACT(トリガアクション)	※3	○	○	※3
初期デバイスネットワーク設定	○	○	×	×
自動コンフィグツール	○	×	×	×
▼一括操作				
デバイス設定	○	○	○	○
SNMP 設定	○	○	○	○
デバイス削除	○	○	○	○
初期化	○	○	○	×
初期化(ネットワーク設定保持)	○	○	×	×
再起動	○	○	○	×
ファームウェア更新	○	○	○	×
コンフィグファイル取得/反映	○	○	○	×
SSID 取得/設定	○	×	×	×
▼デバイス詳細画面				
監視情報	○	○	○	○
デバイス情報	○	○	○	×
ネットワーク情報	○	○	○	×
無線 LAN 情報	○	×	×	×
ポート状態	×	○	○	×
PoE 状態表示	×	×	※2	×
トラフィック・統計	○	○	○	×
周辺無線アクセスポイント検出	○	×	×	×
MAC アドレステーブル	×	○	○	×
SNMP	○	○	○	○
ログ	○	○	○	×
▼その他の機能				
緊急モード	※1	×	×	×
トラフィック超過検出	×	○	○	×
NTP サーバによる時刻同期	○	○	○	○
SNMP Trap, Syslog 受信	○	○	○	○

※1「緊急モード」は AE5411PA のみ対応しています。

※2「PoE 状態表示」は FXCX5512PE のみ対応しています。

※3 トラフィック超過のトリガは非対応です。

2 本システムへのアクセス

本システムには、ブラウザからアクセスを行います。
ブラウザが使用できる端末(以下、アクセス用端末)をお使いください。

動作確認済み WEB ブラウザと各バージョン

WEB ブラウザ	バージョン
Google Chrome	132.0
Microsoft Edge	132.0
Mozilla Firefox	133.0
Safari	17.4

2.1 アクセスとログイン

アクセス用端末と本システムが同一のネットワーク上にあることを確認してください。
ネットワークアドレスが DHCP(動的 IP アドレス)もしくは固定 IP アドレスかによりアクセス方法が変わります。
※デフォルト設定は DHCP となっています。

2.1.1 アクセス方法

(1) DHCP (動的 IP アドレス)でのアクセス方法

起動後、**1 分程度待ってから本システムにアクセス**します。
ブラウザのアドレスバーに、**http://fsv-mgr01/** (もしくは **http://<本システムの動的 IP アドレス>/**)を入力して下さい。

※ Apple 社製の PC を使用している場合は、http://fsv-mgr01.local/ と入力してください。
※ IP アドレスがわからない場合は、トラブルシューティング「**本システムの IP アドレスがわからない場合**」をご参照ください。

(2) 固定 IP アドレスでのアクセス方法

起動後、**最大 5 分程度待ってから本システムにアクセス**します。
アクセスする端末のネットワークを以下のように設定してください

IP アドレス	192.168.234.1
サブネットマスク	255.255.255.0

設定後、ブラウザのアドレスバーに、**http://fsv-mgr01/** (もしくは **http://192.168.234.234/**)を入力して下さい。

※ Apple 社製の PC を使用している場合は、http://fsv-mgr01.local/ と入力してください。
※ この固定 IP アドレスは初期アクセス用の一時的な IP アドレスです。アクセス、ログインした後、「ネットワーク設定画面」にて本システムの IP アドレスを正しく設定してください。

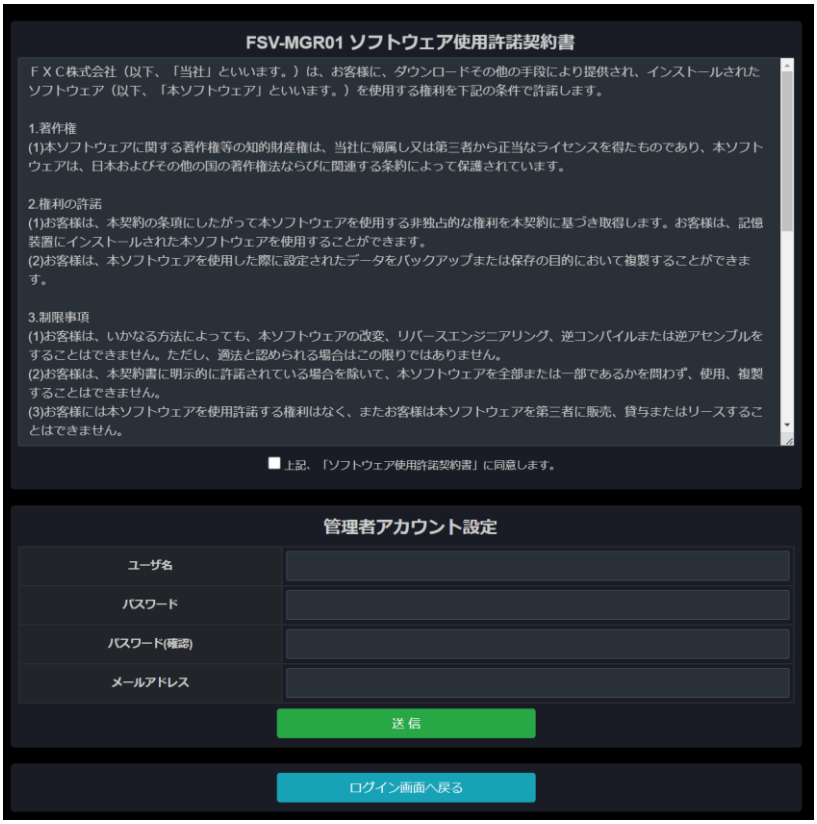
2.1.2 ログイン方法

アクセスが正常にできた場合は本システムのログイン画面が表示されます。
ユーザ名/パスワードを入力して、「ログイン」ボタンを押下すると、本システムへログインができます。
初期値はユーザ名/パスワードともに『**admin**』です。

ログインパスワードをお忘れの場合、**あらかじめメールアドレスを登録済のアカウントのみ**、パスワードリセットが可能です。
パスワードリセット方法は、トラブルシューティング「**ログインパスワードを忘れた場合**」をご参照ください。

※ログイン後、セッションタイムアウト(自動ログアウト時間)は初期値で **20 分**となります。「システム設定」→「アカウント」→「セッション時間」で変更可能です。

初回ログイン時は、以下の「ソフトウェア使用許諾契約書」画面が表示されます。
ソフトウェア使用許諾契約書をよくお読みになり、同意可能であればチェックを入れてください。
また、管理者権限アカウントのユーザ名とパスワード、メールアドレスを設定します。
※初期ユーザ名/パスワードはセキュリティ上危険です。当管理者アカウント設定にて変更してください。
メールアドレスはパスワードを忘れた場合、パスワードリセットの URL を送る際に使用します。



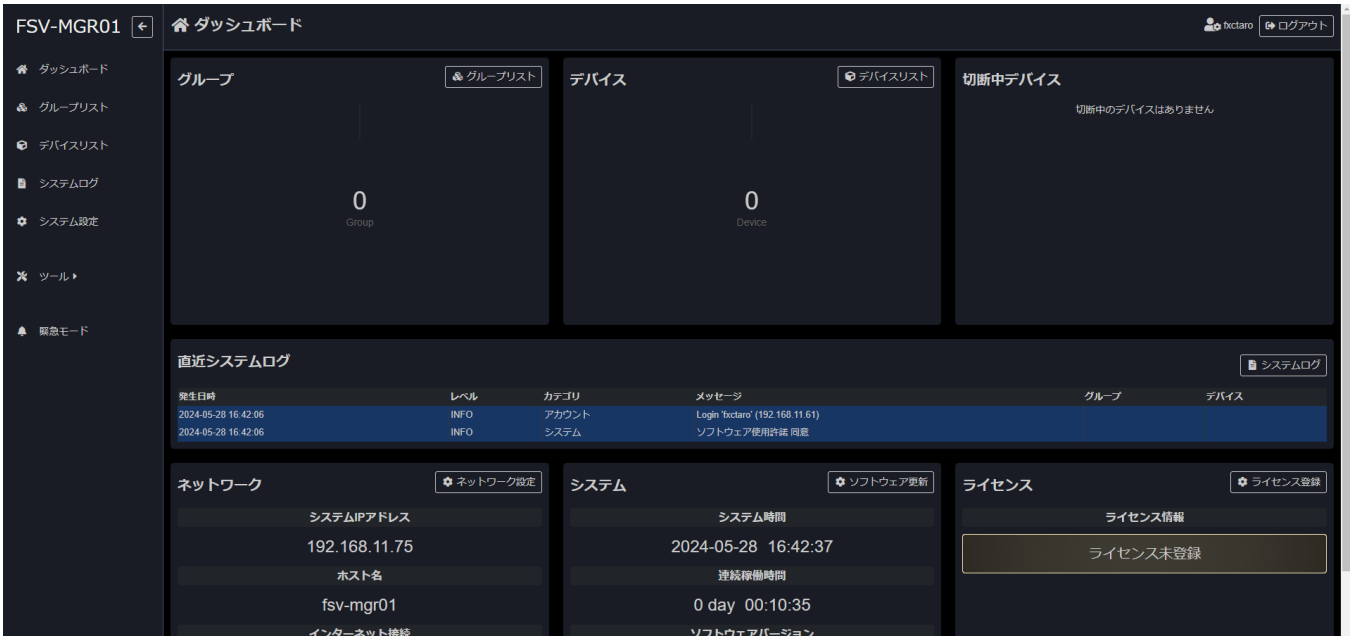
3 ライセンス登録

本章ではシステムの初回起動時に行うライセンス登録について手順を説明します。

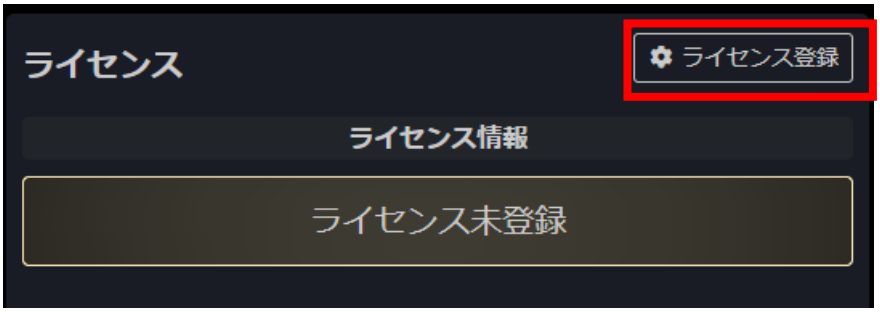
ライセンス登録にはインターネットを介しますので、**本システムをインターネットに接続できる環境**でご使用ください。

3.1 ライセンス登録

ログイン後、ダッシュボード画面に遷移します。



① 画面右下部のライセンスパネル内「ライセンス登録」をクリックします。



② ①をクリックすると、以下の画面に遷移します。
[氏名]・[組織名]・[メールアドレス]・[ライセンスキー]を入力し、「登録」ボタンを押下すると登録完了です。
入力時の書式は下表を参照ください。

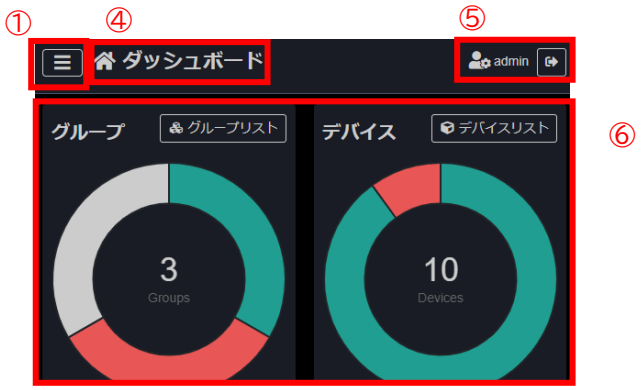
項目	詳細
氏名	本システムの管理者名 （255 文字以内、英数字、記号、日本語入力可）
組織名	本システムの管理組織名 （255 文字以内、英数字、記号、日本語入力可）
メールアドレス	登録可能なメールアドレス
ライセンスキー	当社より発行したライセンスキー

4 画面共通機能

本システムには各種監視や操作等を表示する画面が複数あります。
各画面に共通する機能は以下の通りです。

■PC 等、画面サイズが大きい場合の表示

■スマートフォン等、画面サイズが小さい場合の表示



番号	名称	説明
①	タイトル メニュー拡縮ボタン （メニュー開閉ボタン）	タイトルをクリックするとダッシュボードに遷移します。 メニュー拡縮ボタンをクリックする度に左側サイドメニューが縮小/展開します。 ウィンドウサイズが小さい場合はメニュー開閉ボタンとなり、クリックするとメニューが表示/非表示します
②	メニュー	クリックすると各画面に遷移します。 ツールメニューはマウスを乗せるとサブメニューが開きます。 アカウントの権限設定により表示される項目が異なります。
③	緊急モード	クリックすると AE5411PA の緊急モードを実行するポップアップ画面を表示します。 詳細は「緊急モード」を参照してください。
④	画面タイトル	現在表示中の画面のタイトルが表示されます。
⑤	ログイン中ユーザ ログアウトボタン	現在ログイン中のユーザとその権限がアイコンで表示されます。 ログアウトボタンをクリックするとログアウト処理を行った後ログイン画面に遷移します。
⑥	メインコンテンツ	現在表示中画面のコンテンツが表示されます。

4.1 フィルタリング / ソート

グループリスト画面、グループ詳細画面、デバイスリスト画面には、
各データのフィルタリングやソート機能が備わっています。

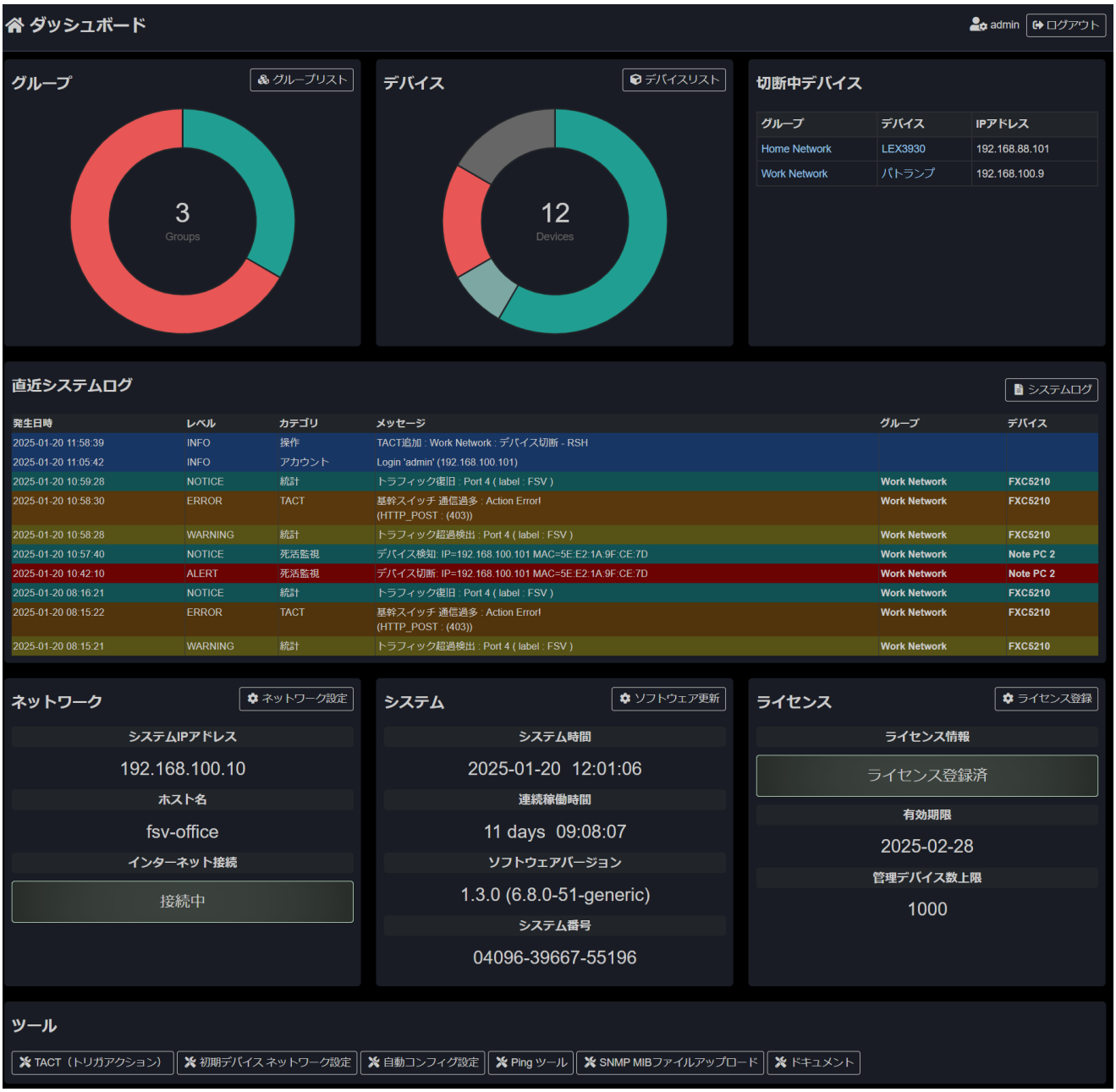
リスト内の項目上部のフィルタ欄や検索欄から、任意の文字を入力/選択することにより、
表示するグループを抽出(フィルタリング)することが可能です。
また、項目をクリックすることにより、各項目にてソート(昇順/降順)を行う事が可能です。

画面を移動しても一時的にフィルタリングおよびソート状態は保存されます(Cookie 保存)

番号	名称	説明
①	検索欄	任意の文字列を入力することにより、リスト内の文字を検索し、表示データを抽出することが出来ます。
②	フィルタ欄	操作することにより各項目のフィルタリングを行います。 項目によりタイプがあります。 入力タイプ:任意の文字列で抽出します。 選択タイプ:プルダウンから選択した値にて抽出します。
③	フィルタクリアボタン	フィルタリングを解除し、全データを表示します。 ※フィルタリングされていない場合はボタンが表示されません。
④	ソート欄	クリックすることにより昇順/降順でソートされます。 ソート状態は明るい△▽マークにて表示されます。

5 ダッシュボード

ダッシュボードはログイン完了後に表示される、本システムのメイン画面です。



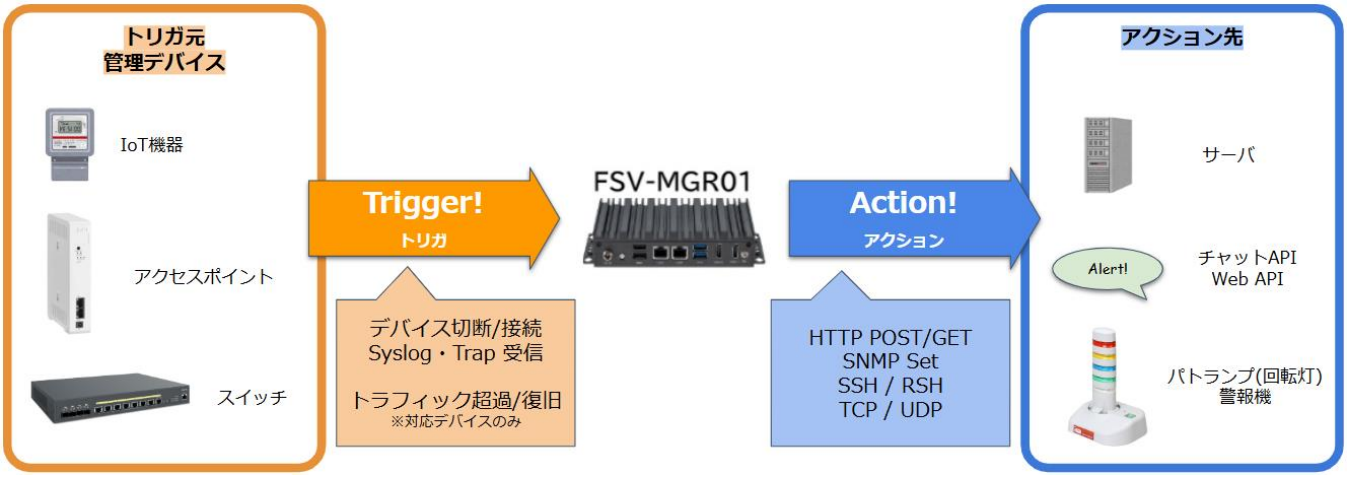
名称	説明
グループ	現在の登録グループ数および各グループの死活状態が表示されます。
デバイス	現在の登録デバイス数および各デバイスの死活状態が表示されます。
切断中デバイス	本システムの監視下の中で切断されているデバイスが表示されます。
直近システムログ	本システムのシステムログが上から最新の順に表示されます。
ネットワーク	本システムの IP アドレスとインターネットの接続状況が表示されます。
システム	システム時間・連続稼働時間・ソフトウェアバージョン・システム番号が表示されます。
ライセンス	登録したライセンスの有効期限および ライセンスに紐づけられた管理デバイス数上限が表示されます。
ツール	以下の画面へ遷移します。 ・TACT（トリガアクション） ・初期デバイスネットワーク設定 ・自動コンフィグ設定 ・Ping ツール ・SNMP MIB ファイル アップロード ・ドキュメント

6 ツール

ツールでは TACT(トリガアクション)設定、初期デバイスネットワーク設定および、自動コンフィグ設定を行うことができます。
また、本システムから Ping コマンドの実行、本システムに関連するドキュメントのダウンロード、SNMP で使用する MIB ファイルのアップロードを行うことができます。

6.1 TACT(トリガアクション)

TACT(トリガアクション)では監視対象機器でイベントが発生した際に、それをトリガとしてネットワーク上の外部機器に対して通知や制御などのアクションを実行することができます。



トリガー一覧

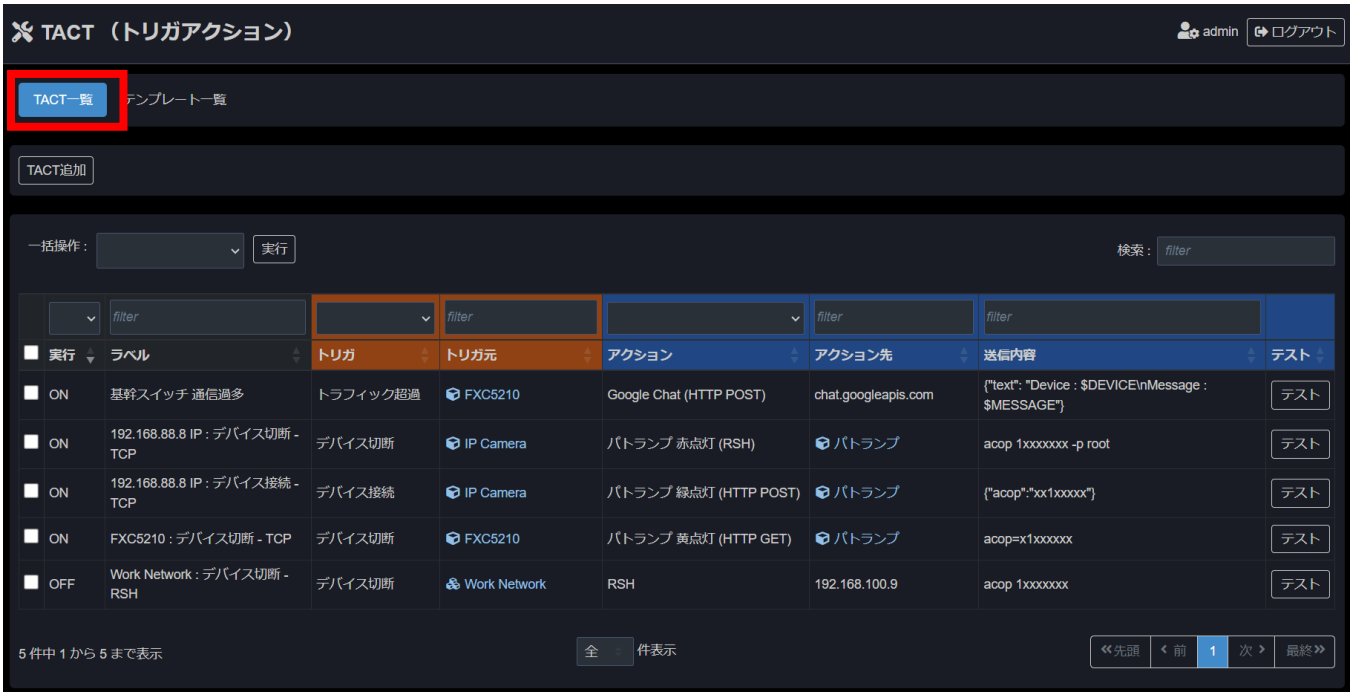
名称	説明
デバイス切断	機器が ONLINE(または DETECTED)から OFFLINE になったとき
デバイス接続	機器が OFFLINE から ONLINE(または DETECTED)になったとき
Syslog 受信	デバイスから Syslog を受信したとき
SNMP Trap 受信	デバイスから SNMP Trap を受信したとき
トラフィック超過	トラフィックが設定した閾値を超過したとき
トラフィック復旧	トラフィックが超過した閾値を下回ったとき

アクション一覧

名称	説明	送信内容 設定例	ポート初期値
SNMP Set	SNMP v1,v2c,v3 の Set 送信	value	161
TCP	TCP 通信	key value -option optval	60000
UDP	UDP 通信	key value -option optval	60000
HTTP GET	GET メソッド送信	key1=value1&key2=value2	80
HTTP POST	JSON 形式での POST メソッド送信	{"key1":"value1", "key2":"value2"}	80
RSH	リモートシェル通信	key value -option optval	-
SSH	セキュアシェル通信	key value -option optval	-

6.1.1 TACT 一覧画面

画面遷移時、または「TACT 一覧」ボタンを押下することで、登録されている TACT の一覧をリスト表示します。
また、フィルタリング機能を使うことで、TACT を絞り込んで検索ができます。



(1) TACT リスト

項目	詳細
実行	TACT を実行するかどうかを ON/OFF で表示します
ラベル	TACT のラベルを表示します
トリガ	トリガ設定を表示します
トリガ元	トリガ元のデバイスまたはグループを表示します
アクション	アクション設定を表示します アクションテンプレートを指定している場合、テンプレートのラベルを表示します
アクション先	アクション先のデバイスまたはホストを表示します
送信内容	アクションの送信内容を表示します
テスト	アクションテストボタンです トリガを実行せずにアクションのみをテストすることが可能です

(2) TACT 追加

① 「TACT 追加」ボタンを押下します。

② 下図の画面がポップアップ表示されますので、製各項目を入力してください。
[追加]ボタンを押下します。設定項目詳細は下表を参照ください。

項目名	設定可能範囲等
ラベル	TACT 画面やシステムログに表示されるラベルを入力します 128 文字以内、英数字、記号、日本語入力可 空欄のまま設定することで、設定内容を基にラベルが自動生成されます
実行	トリガが発生した際、アクションを行うかどうかを選択します
トリガ設定	
トリガ	トリガを選択します
トリガ元	トリガ元を管理グループまたは管理デバイスから選択します
トリガ元グループ トリガ元デバイス	※選択肢は「トリガ元」項目の選択によって変わります トリガ元のグループまたはデバイスを選択します
アクション設定	
アクション選択	アクションの選択方法を指定します アクションテンプレート：事前に作成したテンプレートを指定します 手動設定：アクションを手動で設定します
アクションテンプレート	※「アクション選択」項目で「アクションテンプレート」を選択した場合に表示されます アクションテンプレートを選択します
アクション	※「アクション選択」項目で「手動設定」を選択した場合に表示されます アクションを選択します

アクション先	アクション先をデバイスまたは手動指定から選択します
アクション先デバイス アクション先アドレス	※選択肢は「アクション先」項目の選択によって変わります アクション先のデバイスを選択、または手動でホスト（IP アドレス）を入力します
ポート	※「アクション」項目の選択によって表示されます アクションのポート番号を設定します 空欄でデフォルトポートを使用します
URL パス	※「アクション」項目の選択によって表示されます アクションの URL パス部を設定します 例）/path/to/file.php
ユーザ名	※「アクション」項目の選択によって表示されます アクションのユーザ名を設定します
パスワード	※「アクション」項目の選択によって表示されます アクションのパスワードを設定します
SNMP OID	※「アクション」項目の選択によって表示されます アクションの SNMP OID を設定します 例）「1.3.6.1.4.1.~」または「enterprises.~」など
SNMP Type	※「アクション」項目の選択によって表示されます アクションのポート番号を 1 文字で指定します 例）「s」（String：文字列），「i」（Interger：数値）など
送信内容（コマンド・値）	※「アクション」項目の選択によって表示されます アクションの送信内容を設定します
SNMP Version	※「アクション」項目の選択によって表示されます SNMP のバージョンを選択します
SNMP Community	※「SNMP Version」項目が「v1」,「v2c」の場合に表示されます SNMP のコミュニティ名を入力します
SNMPv3 Username	※「SNMP Version」項目が「v3」の場合に表示されます SNMP のユーザ名を入力します
SNMPv3 Context	※「SNMP Version」項目が「v3」の場合に表示されます SNMP のコンテキストを入力します
SNMPv3 Engine ID	※「SNMP Version」項目が「v3」の場合に表示されます SNMP のエンジン ID を入力します
SNMPv3 Level	※「SNMP Version」項目が「v3」の場合に表示されます SNMP のセキュリティレベルを選択します
SNMPv3 Auth-Protocol	※「SNMP Level」項目が「Auth,NoPriv」,「Auth,Priv」の場合に表示されます SNMP の認証プロトコルを選択します
SNMPv3 Auth-Passphrase	※「SNMP Level」項目が「Auth,NoPriv」,「Auth,Priv」の場合に表示されます SNMP の認証パスフレーズを入力します
SNMPv3 Priv-Protocol	※「SNMP Level」項目が「Auth,Priv」の場合に表示されます SNMP の暗号化プロトコルを選択します
SNMPv3 Priv-Passphrase	※「SNMP Level」項目が「Auth,Priv」の場合に表示されます SNMP の暗号化パスフレーズを入力します

(3) TACT 一括操作

TACT の設定変更や複製、削除を行います。複数の TACT を一括操作することが可能です。

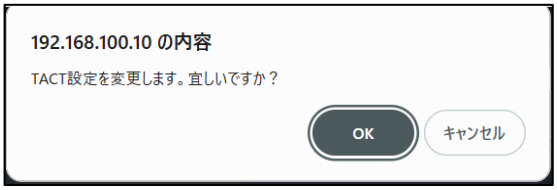
設定変更・複製

TACT の設定変更や複製を行いたい場合、TACT リストの左端にあるチェックボックスにチェックを入れ
一括操作のプルダウンメニューにて「設定変更・複製」を選択し「実行」ボタンを押下して下さい。
複数選択が可能です。

下図の画面がポップアップ表示されますので、各項目を入力してください。
項目は TACT 追加ウィンドウと同様です。

- 各項目の「適用」チェックボックスにチェックが入ることにより、その項目が適用されます。
  チェックボックスは設定値の変更により自動でチェックされます。
  値を変更したが適用したくない場合はチェックを外してください。
- 「複製」チェックボックスにチェックを入れて「適用ボタン」を押下することにより、
  設定変更ではなく TACT が複製されます。
- 複製した際、ラベル変更していない場合や他のラベルと同一となった場合は、
  ラベルの末尾に(番号)が付加されます。

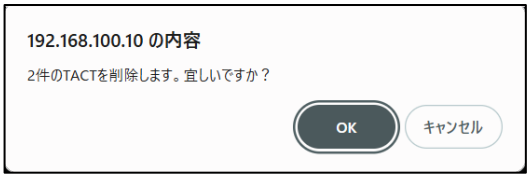
「適用ボタン」を押下すると以下のポップアップウィンドウが表示されるので、問題なければ OK を押してください。



削除

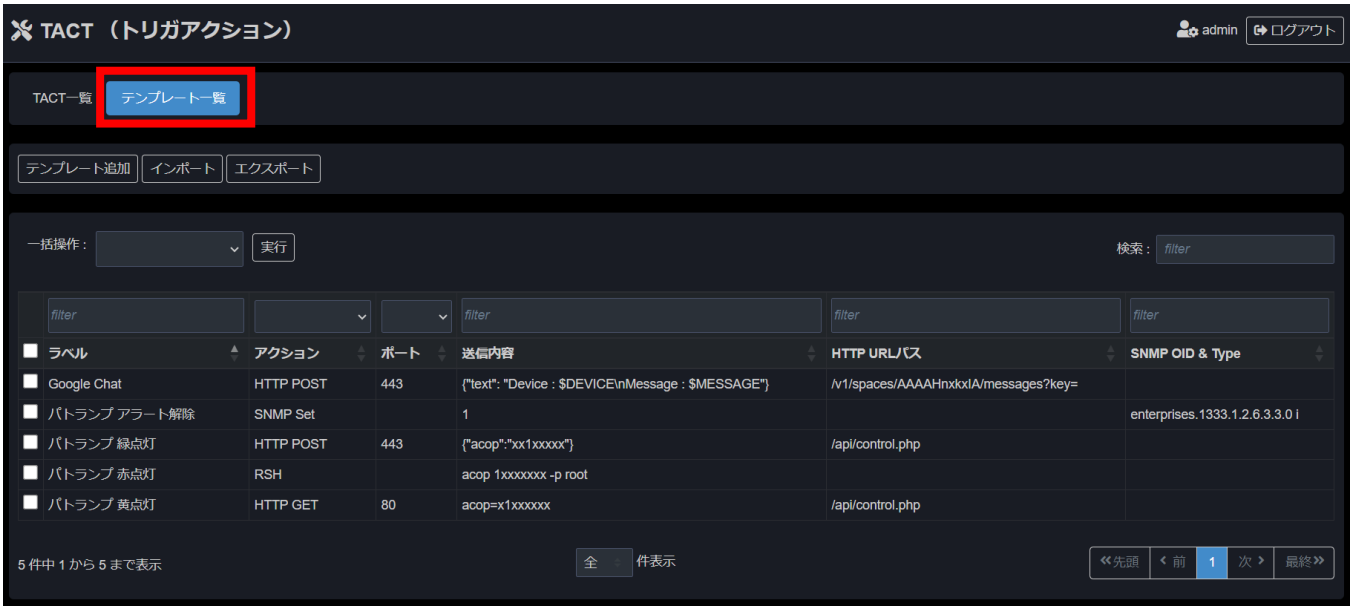
TACT の削除を行いたい場合、TACT リストの左端にあるチェックボックスにチェックを入れ
一括操作のプルダウンメニューにて「削除」を選択し「実行」ボタンを押下して下さい。
複数選択可能です。

以下のポップアップウィンドウが表示されるので、問題なければ OK を押してください。



6.1.2 テンプレート一覧画面

「テンプレート一覧」ボタンを押下することで、登録されているアクションテンプレートの一覧をリスト表示します。
また、フィルタリング機能を使うことで、アクションテンプレートを絞り込んで検索ができます。



(4) アクションテンプレートリスト

項目	詳細
ラベル	TACT のラベルを表示します
アクション	アクション設定を表示します アクションテンプレートを指定している場合、テンプレートのラベルを表示します
ポート	アクションのポート番号を表示します
送信内容	アクションの送信内容を表示します
HTTP URL パス	HTTP(GET / POST)アクションのテンプレート使用時、URL パスを表示します
SNMP OID & Type	SNMP アクションのテンプレート使用時、OID と Type を表示します

(5) アクションテンプレート追加

① 「テンプレート追加」ボタンを押下します。

② 下図の画面がポップアップ表示されますので、製各項目を入力してください。
[追加]ボタンを押下します。設定項目詳細は下表を参照ください。

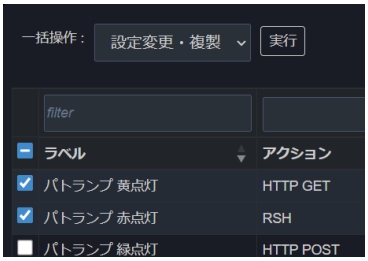
項目名	設定可能範囲等
ラベル	TACT 画面やシステムログに表示されるラベルを入力します 128 文字以内、英数字、記号、日本語入力可 空欄のまま設定することで、設定内容を基にラベルが自動生成されます
アクション	アクションを選択します
ポート	※「アクション」項目の選択によって表示されます アクションのポート番号を設定します 空欄でデフォルトポートを使用します
URL パス	※「アクション」項目の選択によって表示されます アクションの URL パス部を設定します 例）/path/to/file.php
ユーザ名	※「アクション」項目の選択によって表示されます アクションのユーザ名を設定します
パスワード	※「アクション」項目の選択によって表示されます アクションのパスワードを設定します
SNMP OID	※「アクション」項目の選択によって表示されます アクションの SNMP OID を設定します 例）「1.3.6.1.4.1.~」または「enterprises.~」など
SNMP Type	※「アクション」項目の選択によって表示されます アクションのポート番号を 1 文字で指定します 例）「s」（String：文字列），「i」（Interger：数値）など
送信内容(コマンド・値)	※「アクション」項目の選択によって表示されます アクションの送信内容を設定します
SNMP Version	※「アクション」項目の選択によって表示されます SNMP のバージョンを選択します
SNMP Community	※「SNMP Version」項目が「v1」,「v2c」の場合に表示されます SNMP のコミュニティ名を入力します
SNMPv3 Username	※「SNMP Version」項目が「v3」の場合に表示されます SNMP のユーザ名を入力します
SNMPv3 Context	※「SNMP Version」項目が「v3」の場合に表示されます SNMP のコンテキストを入力します
SNMPv3 Engine ID	※「SNMP Version」項目が「v3」の場合に表示されます SNMP のエンジン ID を入力します
SNMPv3 Level	※「SNMP Version」項目が「v3」の場合に表示されます SNMP のセキュリティレベルを選択します
SNMPv3 Auth-Protocol	※「SNMP Level」項目が「Auth,NoPriv」,「Auth,Priv」の場合に表示されます SNMP の認証プロトコルを選択します
SNMPv3 Auth-Passphrase	※「SNMP Level」項目が「Auth,NoPriv」,「Auth,Priv」の場合に表示されます SNMP の認証パスフレーズを入力します
SNMPv3 Priv-Protocol	※「SNMP Level」項目が「Auth,Priv」の場合に表示されます SNMP の暗号化プロトコルを選択します
SNMPv3 Priv-Passphrase	※「SNMP Level」項目が「Auth,Priv」の場合に表示されます SNMP の暗号化パスフレーズを入力します

(6) アクションテンプレート一括操作

アクションテンプレートの設定変更や複製、削除を行います。
複数のアクションテンプレートを一括操作することが可能です。

設定変更・複製

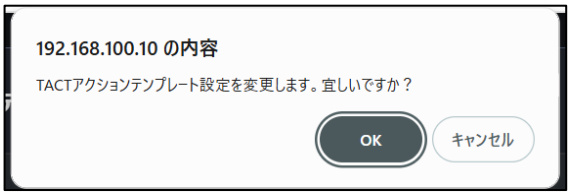
アクションテンプレートの設定変更や複製を行いたい場合、アクションテンプレートリストの左端にあるチェックボックスにチェックを入れ、一括操作のプルダウンメニューにて「設定変更・複製」を選択し「実行」ボタンを押下して下さい。
複数選択が可能です。



下図の画面がポップアップ表示されますので、各項目を入力してください。
項目はアクションテンプレート追加ウィンドウと同様です。

- 各項目の「適用」チェックボックスにチェックが入ることにより、その項目が適用されます。
  チェックボックスは設定値の変更により自動でチェックされます。
  値を変更したが適用したくない場合はチェックを外してください。
- 「複製」チェックボックスにチェックを入れて「適用ボタン」を押下することにより、
  設定変更ではなくアクションテンプレートが複製されます。
- 複製した際、ラベル変更していない場合や他のラベルと同一となった場合は、
  ラベルの末尾に(番号)が付加されます。

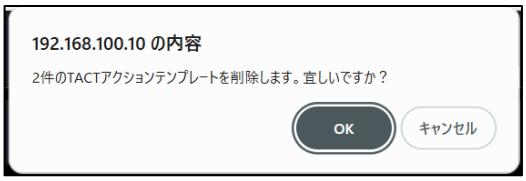
「適用ボタン」を押下すると以下のポップアップウィンドウが表示されるので、問題なければ OK を押してください。



削除

TACT の削除を行いたい場合、TACT リストの左端にあるチェックボックスにチェックを入れ
一括操作のプルダウンメニューにて「削除」を選択し「実行」ボタンを押下して下さい。
複数選択可能です。

以下のポップアップウィンドウが表示されるので、問題なければ OK を押してください。

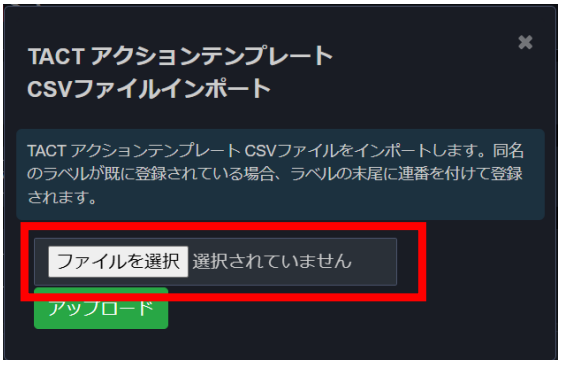


(7) アクションテンプレート インポート

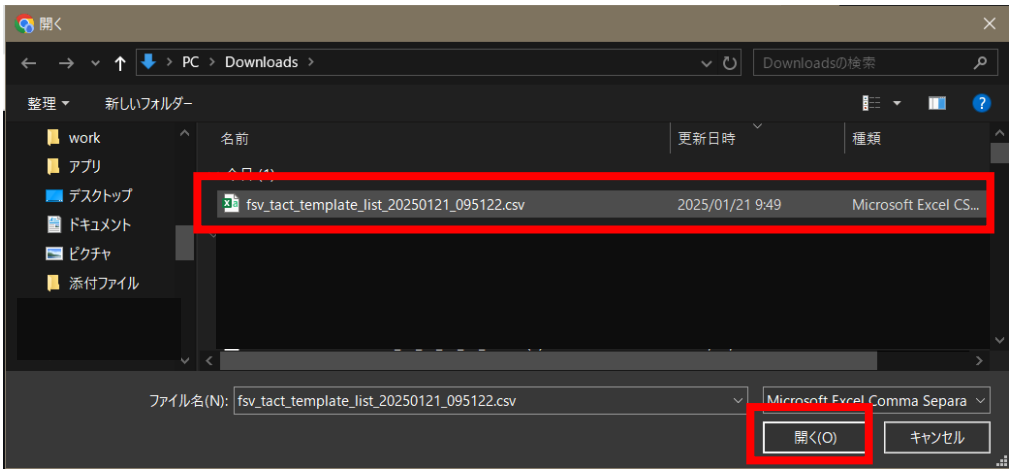
エクスポートされたアクションテンプレート CSV ファイルをインポートします。

① 「インポート」ボタンを押下します。

② 「ファイルを選択」ボタンを押下します。



③ インポート対象の CSV ファイルを選択し、「開く」ボタン押下、
またはインポート対象 CSV ファイルをダブルクリックします。



④ 下図のようにファイル名が表示されたら、「アップロード」ボタンを押下します。

⑤ デバイスリストにデバイスが登録されれば完了です。

(8) アクションテンプレート エクスポート

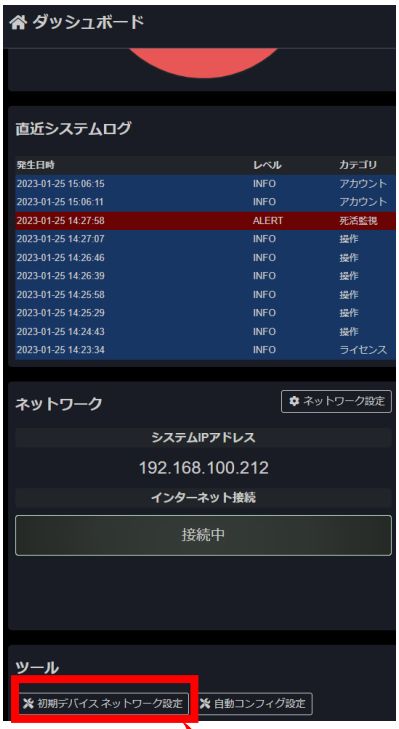
「エクスポート」ボタンを押下することで、グループに登録されているデバイス情報を CSV ファイルに出力します。

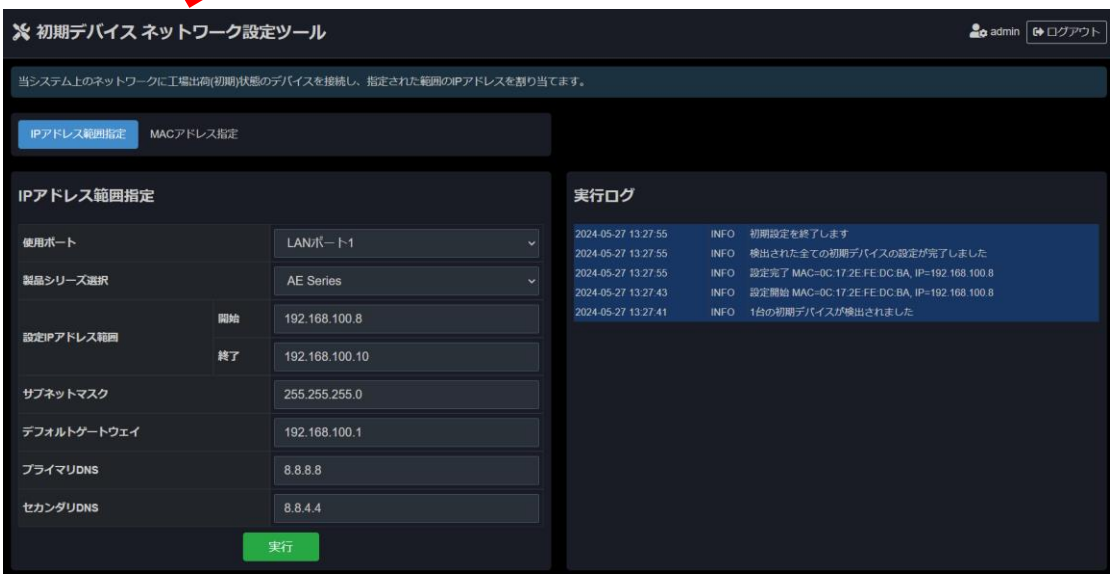
CSV ファイルの項目名は以下の通りです。

項目名	詳細
label	テンプレートラベル
action	アクション
action_port	ポート番号
action_url	URL パス
action_payload	送信内容
action_snmp_oid	SNMP OID
action_snmp_value_type	SNMP Type

6.2 初期デバイスネットワーク設定

初期デバイスネットワーク設定では、工場出荷(初期)状態の AE1041/51 シリーズ・AE5411PA および FXC5200 シリーズの IP アドレスの割り当てを行うことができます。
[IP アドレスの範囲を指定して割り当てを行う方法]と[MAC アドレスをもとに割り当てを行う方法]の 2 つの方法で割り当てが可能です。





6.2.1 設定ネットワーク範囲

割り当てる IP アドレスの範囲を指定して割り当てを行います。
全て入力し、「実行」ボタンを押下すると、割り当てを開始します。

[使用ポート]のプルダウンは、「システムネットワーク設定」にて LAN ポート 2 を有効にした場合に選択できます。
[製品シリーズ選択]のプルダウンでは「AE Series」もしくは「FXC5200 Series」のどちらかを選択できます。

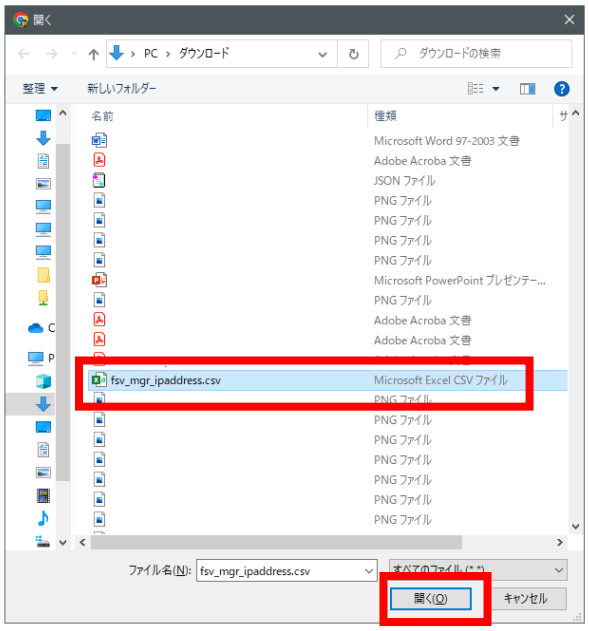
6.2.2 MAC アドレス指定

デバイスの MAC アドレスを指定して IP アドレスの割り当てを行います。
MAC アドレス指定で IP アドレス割り当てを行う場合、所定の書式（下表参照）で記入した CSV ファイルをあらかじめご用意ください。

「使用ポート」のプルダウンは、「システムネットワーク設定」にて LAN ポート 2 を有効にした場合に選択できます。

① 「ファイルを選択」ボタンを押下します。

② 下図のようにダイアログが表示されたら、CSV ファイルを選択します。



③ CSV ファイルの選択後、[実行]ボタンを押下すると、割り当てが開始されます。

CSV ファイル書式

ファイルテンプレートは画面からダウンロードが可能です。

項目	詳細
No	割り当て時の通し番号です。数値のみ入力可能、設定には反映されません。
MACアドレス	登録デバイスの MACアドレスを入力します。
IP アドレス	指定したい IP アドレスを入力します。
サブネットマスク	サブネットマスクを入力します。
デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイを入力します。
プライマリ DNS	プライマリ DNS を入力します。
セカンダリ DNS	セカンダリ DNS を入力します。
ノート	メモを入力できます。(設定には反映されません。省略可能です)

Excel での CSV ファイル書式記入例:

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	#No.	MAC	IP	MASK	GW	PDNS	SDNS	NOTE
2	1	0C:17:2E:9E:A0:19	192.168.1.50	255.255.255.0	192.168.1.254	192.168.1.1	192.168.1.1	メモ1
3	2	0C:17:2E:9E:A0:1B	192.168.1.51	255.255.255.0	192.168.1.254	192.168.1.1	192.168.1.1	メモ2
4								

6.3 自動コンフィグツール

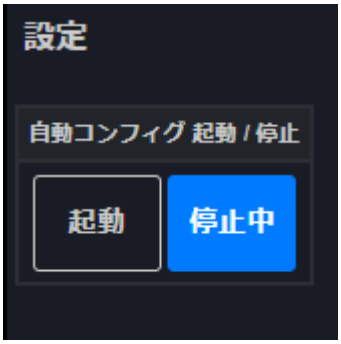
自動コンフィグツールでは、本システムと同じネットワークに初期設定状態の AE シリーズ（AE1041/51 シリーズ,AE5411PA）が接続された際、アップロードされたコンフィグファイルに従い自動で設定を行います。

自動コンフィグを行うには「自動コンフィグファイル」をアップロードし、
「自動コンフィグ 起動/停止」ボタンにて起動を行い、動作中にしてください。
本システムがネットワーク内にある初期設定状態の AE シリーズを探索し、自動で設定を行います。

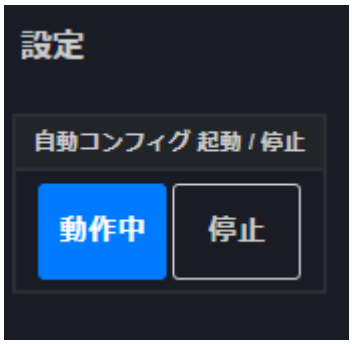
6.3.1 設定

(9) 自動コンフィグ 起動 / 停止

▼自動コンフィグが停止中の場合



▼自動コンフィグが動作中の場合



（10） 自動コンフィグファイル（CSV 形式）

自動コンフィグ機能に必須のファイルとなる、デバイス毎の基本的な設定を記述する CSV ファイルです。
予めアップロードされたファイルと同じデバイスが接続された場合、デバイスごとに個別設定を行います。

「テンプレートダウンロード」ボタンにてテンプレートがダウンロードできます。
ファイル内の説明を参考にして記述してください。

大項目(用途)	項目	説明
機器判定	SERIAL	機器判定用 AE シリーズ シリアルナンバー（10 桁） 自動コンフィグを適用したい機器のシリアルナンバーを記述
グループ自動登録	GROUP	自動登録グループ名 記法:半角英数字記号 1～64 文字 ※空欄の場合は自動登録されません。
アカウント設定	USERNAME	ログインユーザ名 記法:半角英数字記号 1～32 文字
	PASSWORD	ログインパスワード 記法:半角英数字記号 1～32 文字
ネットワーク設定	NW_IPTYPE	IP 種別（固定/DHCP） 記法:S（STATIC）または D（DYNAMIC）
	NW_IP	IP アドレス
	NW_MASK	サブネットマスク
	NW_GW	ゲートウェイアドレス
	NW_DNSTYPE	DNS 種別（固定/DHCP） 記法:S（STATIC）または D（DYNAMIC） ※ IP 種別が STATIC の場合は DNS 種別も STATIC となります。
	NW_DNS1	プライマリ DNS アドレス
	NW_DNS2	セカンダリ DNS アドレス
SSID 設定	2.4G_SSID1_NAME	2.4G SSID1 名称 記法:半角英数字記号（スペースを除く）1～32 文字
	2.4G_SSID1_WPAPSK	2.4G SSID1 パスフレーズ 記法:半角英数字記号（スペースを除く）8～63 文字
	5G_SSID1_NAME	5G SSID1 名称 記法:半角英数字記号（スペースを除く）1～32 文字
	5G_SSID1_WPAPSK	5G SSID1 パスフレーズ 記法:半角英数字記号（スペースを除く）8～63 文字

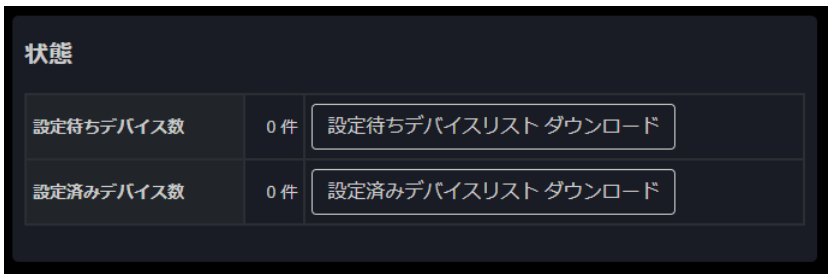
（11） 共通コンフィグファイル（JSON 形式）

任意で AE シリーズのコンフィグファイルをアップロードします。
予め共通コンフィグファイルがアップロードされていた場合、自動コンフィグが適用されるデバイスに追加で適用されます。
ファイルがアップロードされていない場合はデフォルトの設定を適用します。

「テンプレートダウンロード」ボタンにてテンプレートがダウンロードできます。
AE シリーズからダウンロードしたコンフィグファイルを共通コンフィグファイルとして使用することも可能です。

6.3.2 状態

状態では、前節の自動コンフィグが完了していないデバイス、完了したデバイス数の確認が可能です。
また、それぞれリストを CSV 形式にてダウンロード可能です。



6.4 Ping ツール

Ping ツールは本システムから対象のデバイスに ping コマンドを実行し、対象デバイスが疎通しているかどうかを確認するツールです。

6.4.1 個別入力

対象デバイスの IP アドレスまたはホスト名を 1 つずつ入力します。
カンマ、改行、スペースで複数の対象を指定可能です。

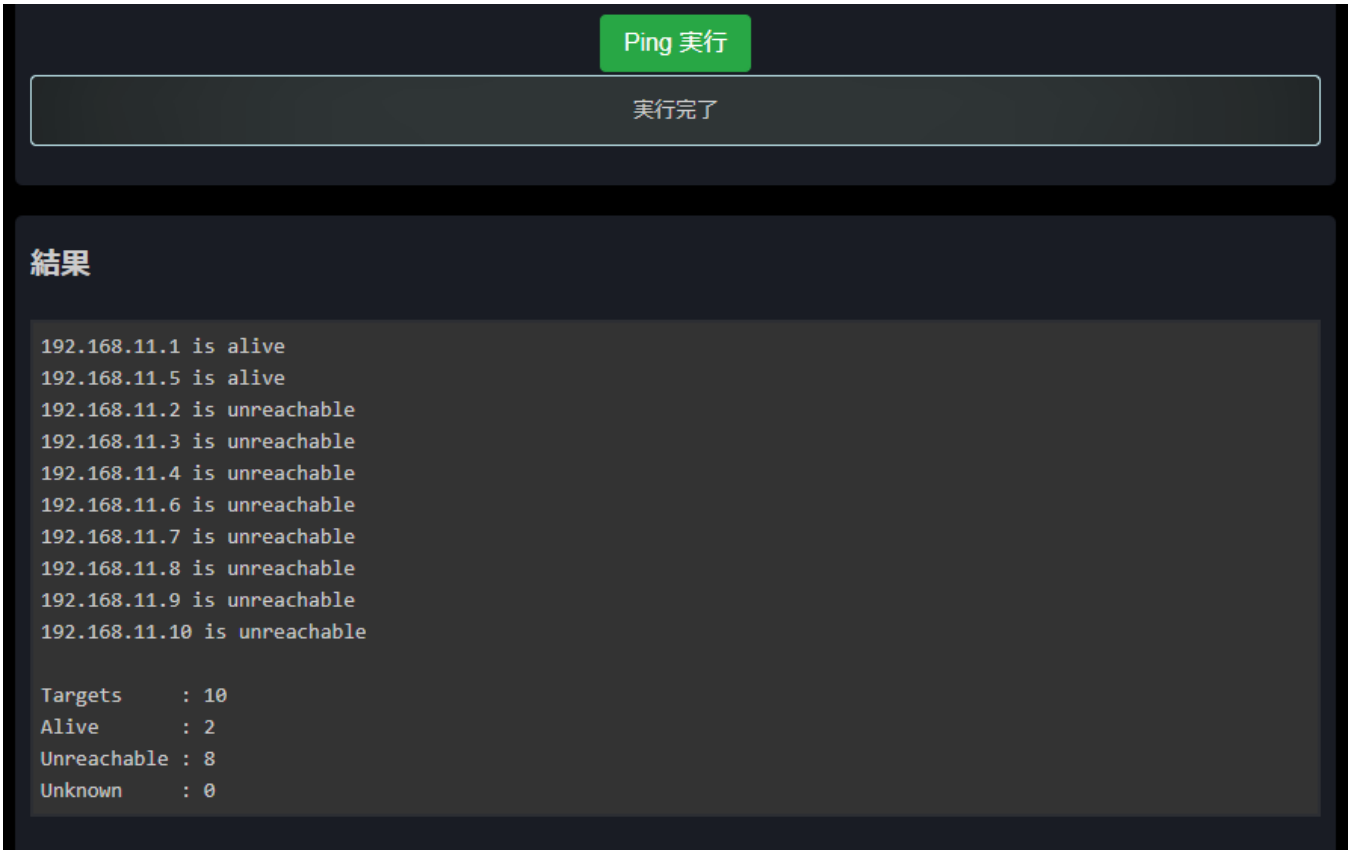
6.4.2 範囲入力

対象デバイスを IP アドレス範囲で指定します。

6.4.3 実行結果

デバイスを指定し Ping 実行を行います。

Ping の実行が完了すると、実行結果が表示されます。



表記	詳細
..***.*** is alive	デバイスと疎通(Ping 応答有り)
..***.*** is unreachable	デバイスと未疎通(Ping 応答無し)
全体結果	
Targets	指定された対象デバイス数
Alive	疎通デバイス数
Unreachable	未疎通デバイス数
Unknown	その他(指定ミス、範囲外の IP アドレスやホスト名など)

6.5 ドキュメントダウンロード

ドキュメントダウンロードは、本システムにて使用する「ユーザマニュアル」や「インストレーションガイド」、また「ソフトウェア使用許諾契約書」などの規約をダウンロードし確認することが可能です。

現在は以下のドキュメントがダウンロード可能です。
※一部のドキュメントにつきましては、弊社サイトからのダウンロードをお願い致します。

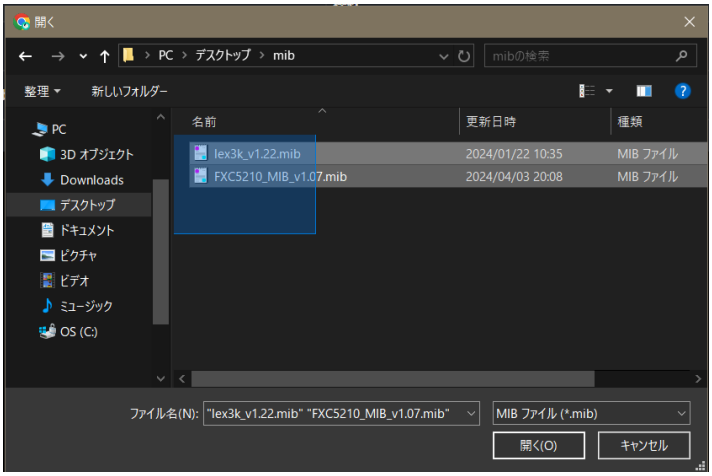
ドキュメント名	概要	備考
ソフトウェア使用許諾契約書	初回ログイン時に同意の許諾契約書	本システムからダウンロード
ユーザマニュアル	本マニュアル	FXC サイトを表示
インストレーションガイド	本システムのハードウェアに関するガイド	FXC サイトを表示

6.6 SNMP MIB ファイルアップロード

SNMP Trap や SNMP 取得の際に、OID を翻訳する MIB ファイルをアップロードします。

項目	詳細
アップロードボタン	MIB ファイルを選択し、アップロードを行います。 複数の MIB ファイルを一括で選択し、アップロード可能です。 マウスで左クリックを押しながらファイルを囲むか、キーボードの「Ctrl」ボタンを押しながら選択してください。
ダウンロードボタン	既にアップロードされている MIB ファイルをダウンロードします。
削除ボタン	アップロードされている MIB ファイルを削除します。

アップロード時の複数選択の例:



7 グループリスト画面

グループリストは、デバイスを登録するためのグループの作成や設定を行うことができます。

7.1 グループリスト

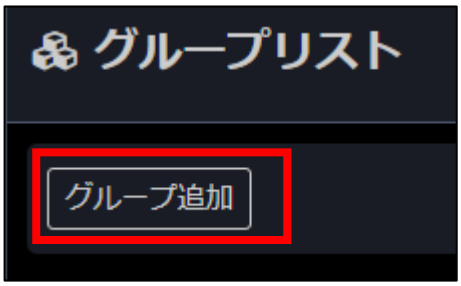
登録されているグループの一覧をリスト表示します。

また、フィルタリング機能を使うことで、グループを絞り込んで検索ができます。

項目	詳細
グループ	グループ名
通知	グループの死活監視通知設定（「デバイス毎の死活監視通知機能」参照） ON　　：グループ ON 設定 OFF　　：グループ OFF 設定
デバイス数	グループに登録されているデバイスの総数
接続	グループに登録されているデバイスの接続(ONLINE)数 ※デバイス検知状態も含みます
切断	グループに登録されているデバイスの切断(OFFLINE)数
他	グループに登録されているデバイスの 接続・切断状態以外(非監視、FW 更新中)の数
グループ詳細	グループの詳細ページへ遷移します

7.2 グループ作成・追加

③ 「グループ追加」ボタンを押下します。



④ グループ名や死活監視通知を入力・選択後、「追加」ボタンを押下します。
（32 文字以内、英数字、記号、日本語入力可能です。）

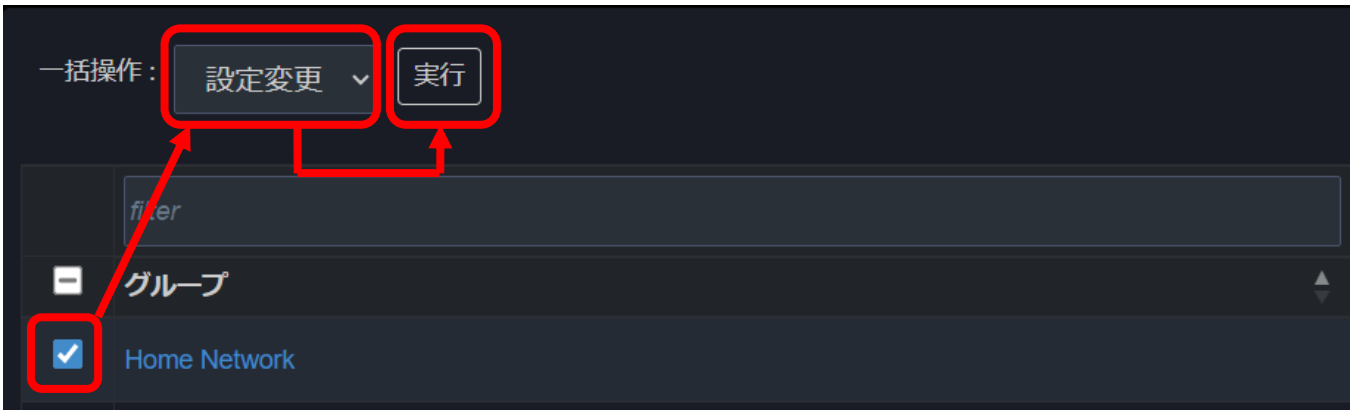
項目名	詳細	設定可能範囲等
グループ	グループ名称	32 文字以内、英数字、記号、日本語入力可
死活監視通知	死活監視状態ログの通知設定（「デバイス毎の死活監視通知機能」参照）	チェック ON　　:通知する チェック OFF　　:通知しない ※グループの設定を反映させるには、デバイスでの死活監視通知を「Group」に設定してください
メール通知先	死活監視のメール通知先	メール通知設定（「メール通知設定」参照）および「OFF」からプルダウンにて選択

7.3 グループ一括操作

7.3.1 設定変更

登録済みのグループ名や死活監視通知設定を変更できます。
※グループ名を変更する際はグループを 1 つだけ選択状態にしてください。

① グループリストから設定変更したいグループのチェックボックスにチェックを入れ、
一括操作プルダウンから設定変更を選択し、実行ボタンを押下します。



② グループ設定変更ウィンドウが表示されるので、変更したい項目を入力します。
変更した項目の左端チェックボックスにチェックが入ります。

③ 適用ボタンをクリックします。
チェックボックスにチェックが入った項目が適用され、それ以外は元の設定が維持されます。

7.3.2 削除

登録済のグループを一括で削除できます。

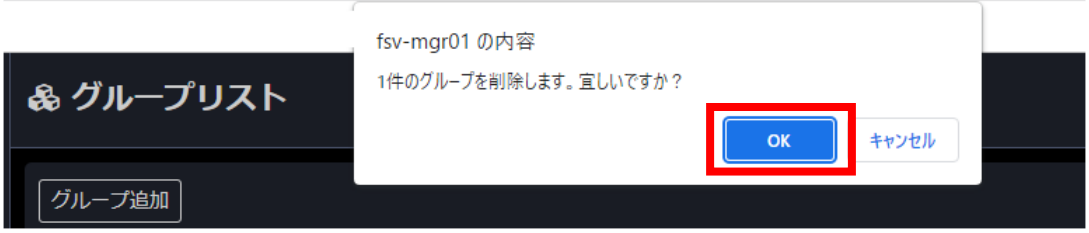
① グループリストから削除したいグループのチェックボックスにチェックを入れます。
すべてのグループを削除したい場合は、左上のチェックボックス（〇印の箇所）にチェックを入れることで、
すべてのグループを選択できます。

▼個別選択の場合

▼すべてグループを選択したい場合

② 一括操作プルダウンから「削除」を選択、「実行」ボタンを押下します。

③ 下記画像のようなポップアップ表示があります。削除件数があっていれば「OK」ボタンを押下します。



④ ③の実行後、①で選択したグループが削除できていれば完了です。

7.3.3 グループ詳細画面への遷移

グループリストから各グループの詳細ページへ遷移ができます。

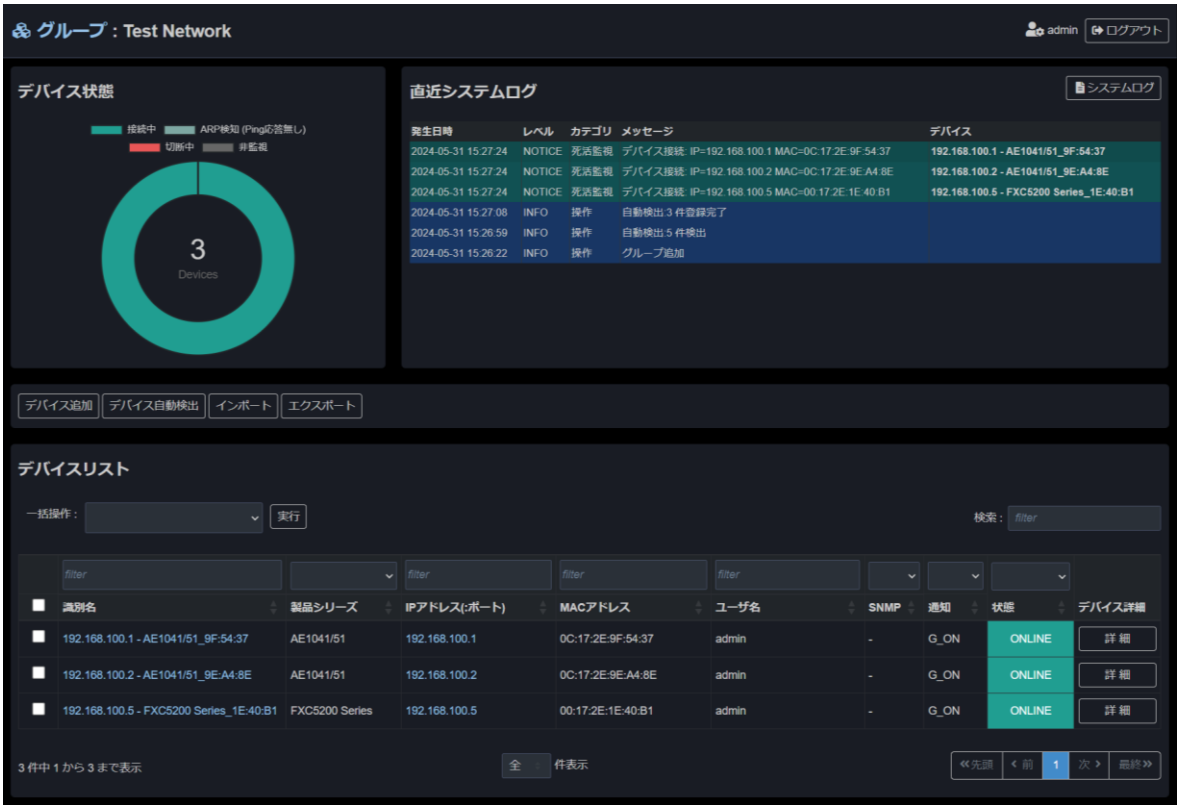
グループリスト内のグループ詳細欄、「詳細」ボタンを押下するとグループ詳細画面へ遷移します。

また、グループ名を押下することでも同様に遷移が可能です。

詳細は「グループ詳細画面」を参照ください。

8 グループ詳細画面

グループ詳細は、グループ内で登録されたデバイスの一括操作や死活監視を行うことができます。
IP アドレスをクリックすることで、各デバイスの管理画面へ遷移することができます。



8.1 デバイス状態

グループに登録されている機器の状態を表します。

状態	詳細
接続中	本システムとデバイスとの疎通が出来ている状態(Ping 応答有り)
ARP 検知 (Ping 応答無し)	本システムとデバイスとの疎通が ARP のみ出来ている状態(Ping 応答無し)
切断中	本システムとデバイスとの疎通が出来ていない状態
非監視	本システムの設定にてデバイスの死活監視を行っていない状態

8.2 直近システムログ

グループに登録されているデバイスの直近のシステムログ(Syslog)が最大 10 件表示されます。

右上「システムログ」ボタンの押下で、後述のシステムログページに遷移できます。

8.3 デバイスリスト

グループに登録されているデバイスの一覧をリスト表示します。

また、フィルタリング機能を使うことで、グループ内のデバイスを絞り込んで検索ができます。

項目	詳細
識別名	デバイスの識別名
製品シリーズ	デバイスの製品シリーズ
IP アドレス:ポート	デバイスの IP アドレス および http(s)アクセス用ポート番号(80 = 非表示)
MAC アドレス	直近にて検出されたデバイスの MAC アドレス
ユーザ名	デバイスのユーザ名
SNMP	デバイスの SNMP バージョン
通知	デバイスの死活監視通知設定 (「デバイス毎の死活監視通知機能」参照) ON　　：デバイス ON 設定 OFF　　：デバイス OFF 設定 G_ON　：グループ ON 設定 G_OFF　：グループ OFF 設定
状態	デバイスの状態
デバイス詳細	デバイスの詳細ページへ遷移します

8.4 デバイスの追加

グループに対して「デバイス追加」・「デバイス自動検出」・「インポート」のいずれかの方法で機器の登録が可能です。
「デバイス追加」は手動で機器を登録します。
「デバイス自動検出」は指定したネットワーク内で機器を自動的に検出して登録します。
「インポート」は事前に作成した CSV ファイルから機器情報を読み取って登録します。

8.4.1 デバイス追加

① 「デバイス追加」ボタンを押下します。

② 下図の画面がポップアップ表示されますので、製品シリーズを選択し、各項目を入力してください。
[追加]ボタンを押下します。設定項目詳細は下表を参照ください。
※製品シリーズを選択していない場合、デバイスの詳細設定項目と[追加]ボタンは表示されません。

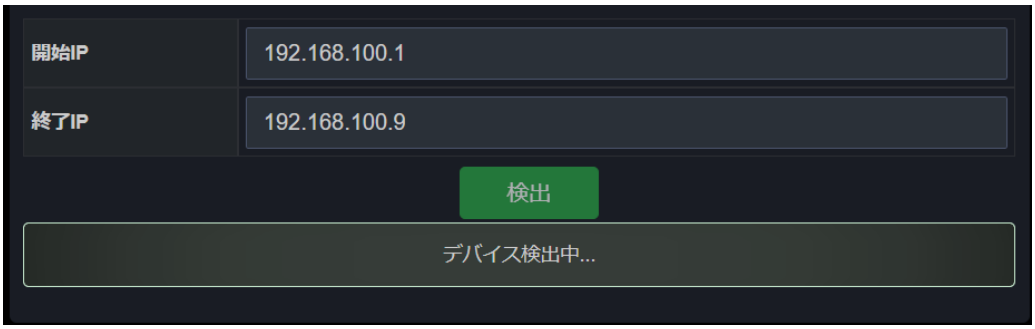
項目名	詳細	設定可能範囲等
製品シリーズ	デバイスの製品型番	プルダウンにて選択します。 選択した製品シリーズにより以下の設定項目の有無が変わります。
グループ	デバイスを登録するグループ	プルダウンにて選択可 グループの選択はデバイスリストでの追加時のみ可能です。
識別名	デバイスの識別名	48 文字以内、英数字、記号、日本語入力可
IP アドレス	デバイスの IP アドレス	IPv4 のドット付き＋10 進表記 例:192.168.1.1
ポート	デバイスのポート番号	http(s)アクセス用ポート番号:初期値 80 設定可能なポート番号は登録する機器による
ユーザ名	デバイスのユーザ名	入力可能文字・文字数、入力禁止文字は登録する機器による
パスワード	デバイスのパスワード	入力可能文字・文字数、入力禁止文字は登録する機器による
死活監視	死活監視の実行有無の設定	ON ：死活監視を行う OFF：死活監視を行わない
死活監視通知	死活監視状態ログの通知設定 （「**デバイス毎の死活監視通知機能**」参照）	Group ：グループ設定に従う ON ：グループ設定に関わらず通知する OFF ：グループ設定に関わらず通知しない
メール通知先	死活監視のメール通知先	メール通知設定（メール通知設定参照）および「OFF」からプルダウンにて選択
Syslog 通知	Syslog 通知の有無の設定	ON ：Syslog 通知を行う OFF：Syslog 通知を行わない

8.4.2 デバイス自動検出

① 「デバイス自動検出」ボタンを押下します。

② 自動検出したいネットワークの範囲(開始 IP/終了 IP)を指定し、「検出」ボタンを押下します。

検出中は以下のように検出の進捗メッセージが表示されます。



③ 検出が完了すると、検出件数とデバイスが表示されます。

・「対応製品」に記載のない製品が検出された場合は、[製品シリーズ]欄に【Other】で認識されます。

・ローカルネットワーク範囲外のデバイスは[備考]欄に「NW アドレス範囲外」と記載されます。

・Ping 応答無し かつ ARP 検知されたデバイスは[備考]欄に「ARP 検知 (Ping 応答無し)」と記載されます。

・本システム自体が検出対象に含まれていた場合は、[備考]欄に「自機」と記載されます。

④ 検出されたリストから、登録したいデバイスにチェックを入れます。
すべてのデバイスをチェック/非チェックするには、[登録]欄のチェックボックスを操作します。

⑤ 「IP アドレス重複時の動作」を選択します。
すでにグループ内に同一 IP アドレスのデバイスが存在した場合の動作を決定します。

動作	動作説明
除外する	重複時、選択デバイスは登録から除外し、登録済みデバイスを保持します。
上書きする	重複時、選択デバイス情報を登録済みデバイスに上書きします。
新規登録する	重複時、選択デバイスを新規登録し、登録済みデバイスも保持します。(重複します)

⑥ 最後に登録ボタンを押下して、登録を行います。
登録処理後、自動的に該当グループ詳細画面へ遷移します。

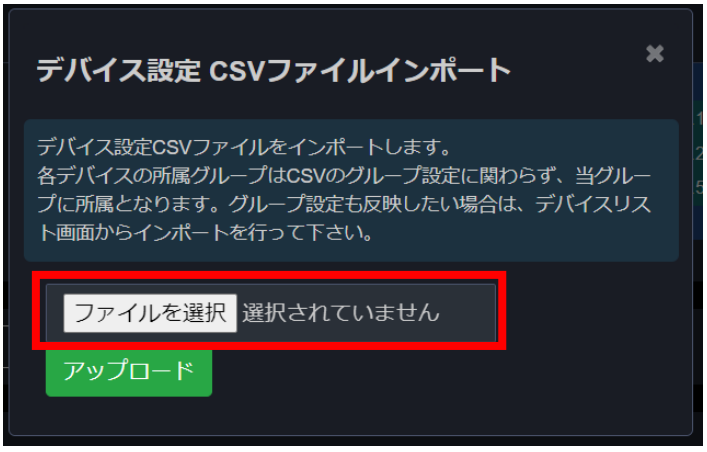
8.4.3 インポート

エクスポートされたデバイス設定 CSV ファイルをインポートします。

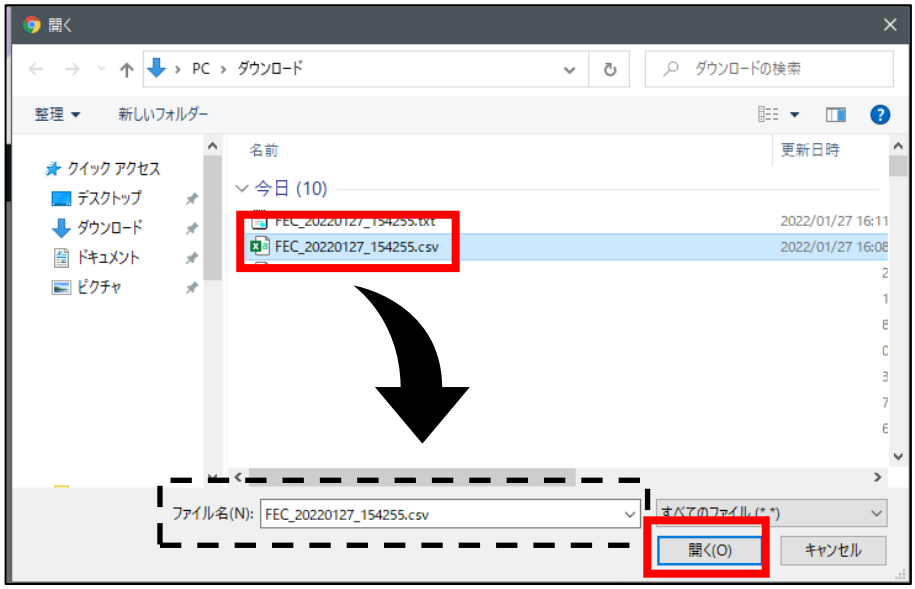
※ CSV ファイルに記載されているデバイスの所属グループは、CSV ファイル内のグループ設定に関わらずインポートを行ったグループに所属となります。グループ設定も反映したい場合は、デバイスリスト画面からインポートを行って下さい。

⑥ 「インポート」ボタンを押下します。

⑦ 「ファイルを選択」ボタンを押下します。



⑧ インポート対象の CSV ファイルを選択し、「開く」ボタン押下、またはインポート対象 CSV ファイルをダブルクリックします。



⑨　下図のようにファイル名が表示されたら、「アップロード」ボタンを押下します。

⑩　デバイスリストにデバイスが登録されれば完了です。

8.4.4 エクスポート

「エクスポート」ボタンを押下することで、グループに登録されているデバイス情報を CSV ファイルに出力します。

CSV ファイルの項目名は以下の通りです。

項目名	詳細
group_name	グループ名
hostname	識別名
product_name	製品シリーズ
management_ip	デバイスの IP アドレス
management_port	デバイスの HTTP アクセスポート番号
mac	MAC アドレス
user	ユーザ名
password	パスワード
check	死活監視設定
notice	死活監視通知設定
snmp_version	SNMP バージョン（0: OFF, 1: version1, 2: version2c, 3: version3）
snmp_community	SNMP コミュニティ名
snmpv3_username	SNMPv3 ユーザ名
snmpv3_context	SNMPv3 コンテキスト
snmpv3_level	SNMPv3 レベル（1: NoAuthNoPriv, 2: AuthNoPriv, 3: AuthPriv）
snmpv3_auth_protocol	SNMPv3 オーセンティケーションプロトコル（1: MD5, 2: SHA）
snmpv3_auth_passphrase	SNMPv3 オーセンティケーションパスフレーズ
snmpv3_priv_protocol	SNMPv3 プライバシープロトコル（1: DES, 2: AES）
snmpv3_priv_passphrase	SNMPv3 プライバシーパスフレーズ

8.5 一括操作

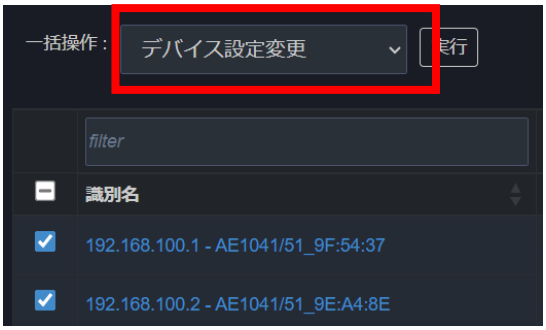
グループ詳細画面から、各グループに登録されているデバイスの一括操作を行うことができます。

製品シリーズによる各一括操作の対応は「機能別対応表」をご参照ください。

8.5.1 デバイス設定変更

登録されているデバイスの管理設定項目を変更します。
全ての登録デバイスが対応しています。

① デバイス選択後、プルダウンから「デバイス設定変更」を選択、実行を押下します。



② [デバイス設定変更]ウィンドウが表示されます。すべて入力後「適用」ボタンを押下します。
複数のデバイスを選択した場合、設定値が異なる項目は空欄となります。
また、製品シリーズが異なるデバイスを複数選択した場合は製品シリーズ欄が「--------」と表示されます。
変更する項目のみ適用チェックボックスが入っていることを確認して、適用を押下してください。

③

▲デバイスを一つ選択した場合：

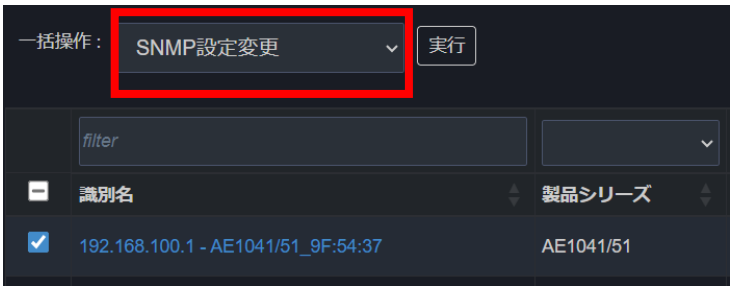
▲異なる製品シリーズのデバイスを複数選択した場合：

④ AE シリーズや FXC シリーズ製品の IP アドレスやユーザ名、パスワードを変更した際、
本体の同設定を変更するかどうかのポップアップが表示されます。
「OK」を押下すると、本体の設定も変更されます。

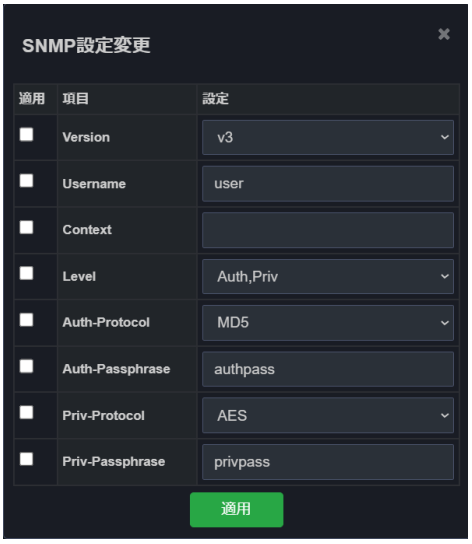
8.5.2 SNMP 設定変更

デバイスの SNMP 取得設定を変更します。
全ての登録デバイスが対応しています。
また、本システムでは SNMP バージョン 1, バージョン 2c, バージョン 3 に対応しています。

① デバイス選択後、プルダウンから「SNMP 設定変更」を選択、実行を押下します。



② [SNMP 設定変更]ウィンドウが表示されます。
SNMP バージョンを選択し、デバイスの SNMP 設定を入力後「適用」ボタンを押下します。
複数のデバイスを選択した場合、設定値が異なる項目は空欄となります。



▲SNMPv3 設定：

▲SNMPv2c, SNMPv1 設定

8.5.3 リストから削除

チェックしたデバイスをグループリストから削除します。
全ての登録デバイスが対応しています。

① デバイス選択後、プルダウンから「リストから削除」を選択、実行を押下します。

② 確認メッセージがポップアップ表示されます。削除件数に間違いがなければ「OK」ボタンを押下します。

8.5.4 初期化

チェックしたデバイスの設定を初期化します。
FXC 対応製品(=製品シリーズが「Other」以外の登録デバイス)が対応しています。

「初期化」には2パターンあります。
「初期化(全て初期化)」を実行した場合は、**ネットワーク構成を含むすべての設定**が初期化され、
「初期化(NW構成保持)」を実行した場合は、ネットワーク構成以外の設定を初期化します。

どちらを実行しても手順は同じです。

① プルダウンから「初期化(全て初期化)」もしくは「初期化(NW構成保持)」を選択、実行を押下します。

▼全て初期化の場合

▼NW構成保持の場合

② 確認メッセージがポップアップ表示されます。内容に間違いがなければ「OK」ボタンを押下します。

8.5.5 再起動

チェックしたデバイスを再起動します。
FXC 対応製品(=製品シリーズが「Other」以外の登録デバイス)が対応しています。

① プルダウンから「再起動」を選択、実行を押下します。

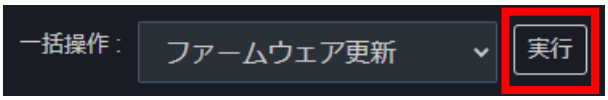
② 確認メッセージがポップアップ表示されます。
再起動するデバイス数に間違いがなければ「OK」ボタンを押下します。

8.5.6 ファームウェア更新

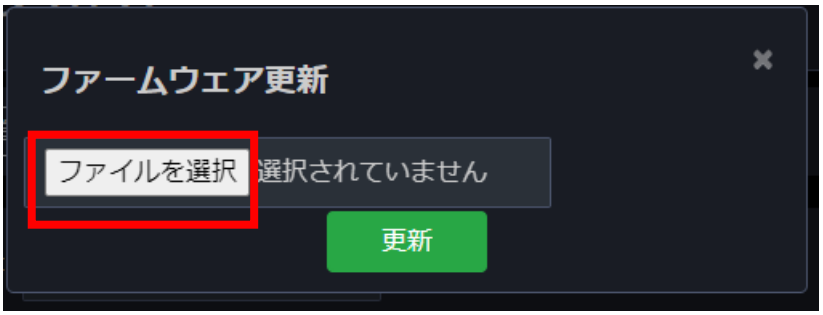
チェックしたデバイスのファームウェア更新を行います。

FXC 対応製品(=製品シリーズが「Other」以外の登録デバイス)が対応しています。

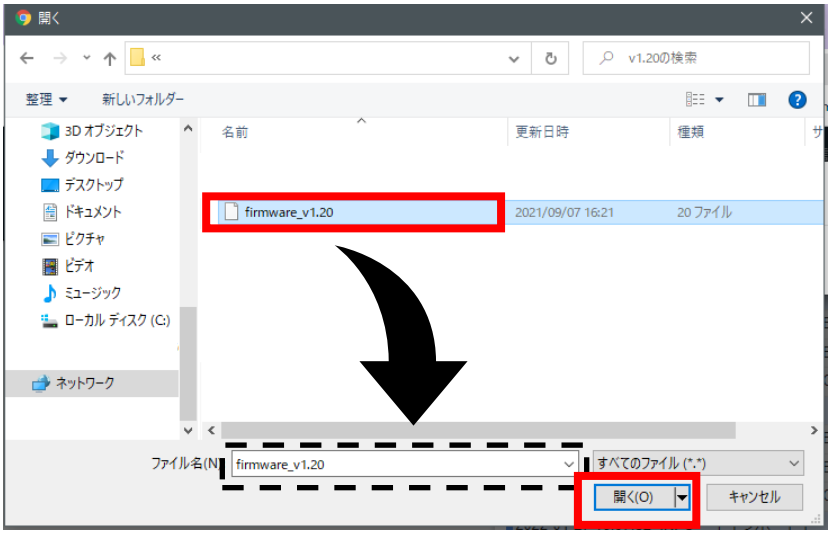
① プルダウンから「ファームウェア更新」を選択、実行を押下します。



② [ファームウェア更新]画面へ遷移します。「ファイルを選択」ボタンを押下します。

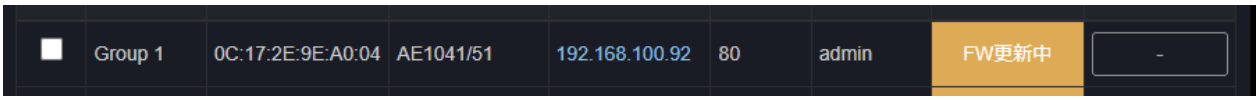


③ ファームウェア更新を実施したいデバイスのファームウェアを選択します。



④ 下図のように、選択したファームウェアが表示されたのを確認し、「更新ボタン」を押下します。

⑤ ファームウェア更新が開始されると、デバイスリストの状態が下図のように変化します。



⑥ ファームウェア更新後、状態が「ONLINE」になればファームウェア更新完了です。

8.5.7 コンフィグダウンロード

チェックしたデバイスの設定情報を管理端末にダウンロードします。
FXC 対応製品(=製品シリーズが「Other」以外の登録デバイス)が対応しています。

※ コンフィグダウンロードは複数デバイスの指定はできません。デバイスを 1 つ選択して実行してください。
※ L3,L2+,L2 スイッチ製品は startup-config からダウンロードされます。機器本体で running-config を保存していない場合は、一度機器本体で設定保存を実行してから当操作を行ってください。

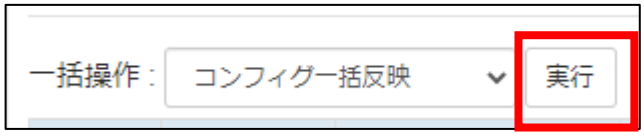
① デバイスを1つ選択後、プルダウンから「コンフィグダウンロード」を選択、実行を押下します。

② コンフィグファイルのダウンロードが開始されます。

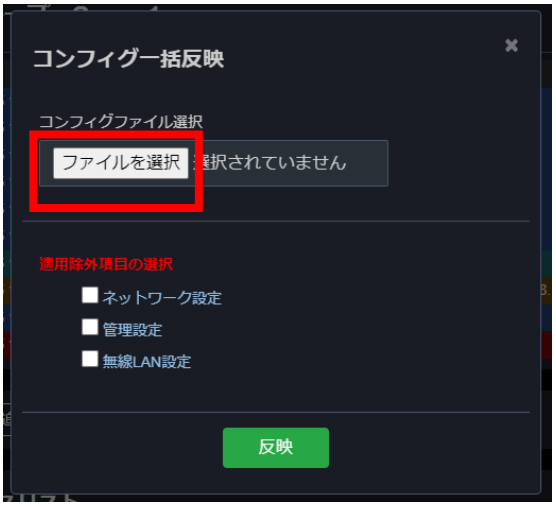
8.5.8 コンフィグ一括反映

チェックしたデバイスの設定を一括で行うことができます。
FXC 対応製品(=製品シリーズが「Other」以外の登録デバイス)が対応しています。

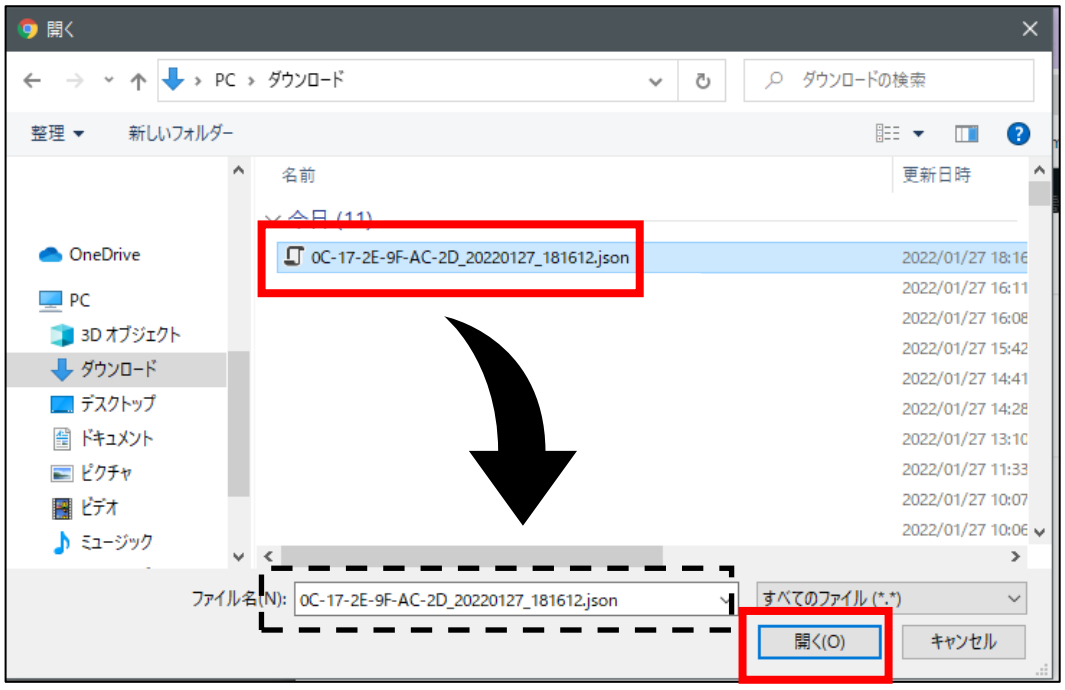
① プルダウンから「コンフィグ一括反映」を選択、「実行」ボタンを押下します。



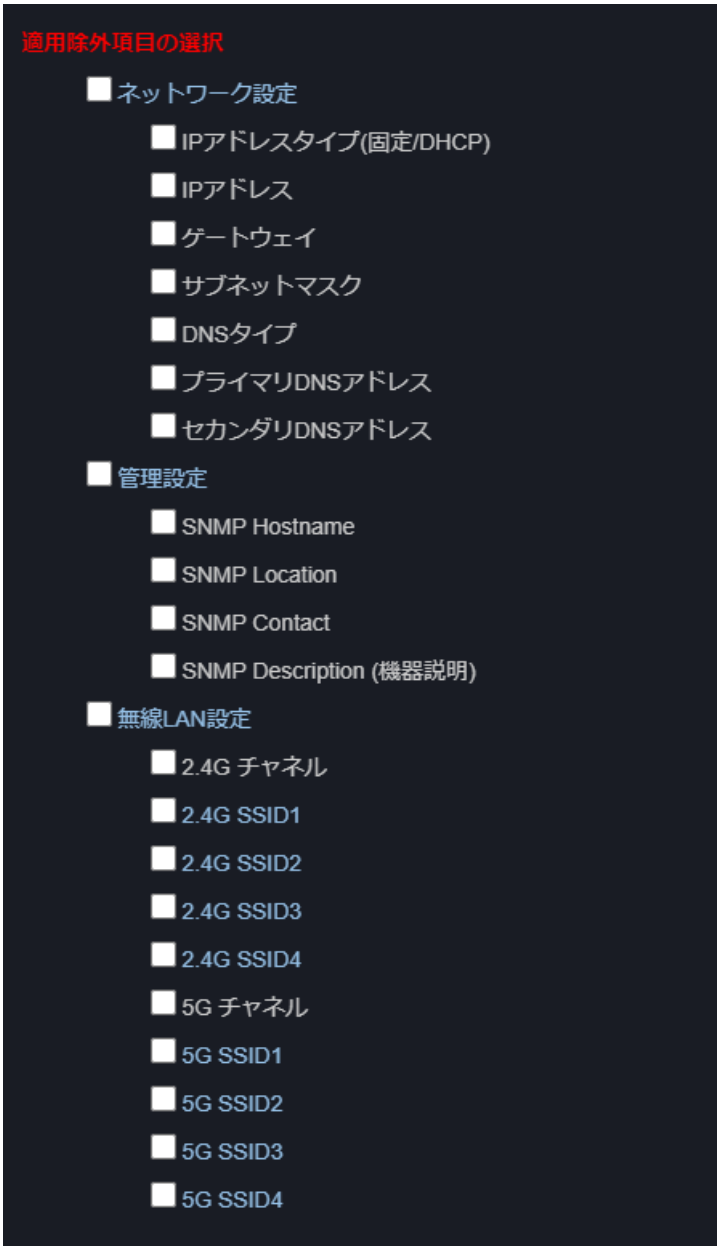
② [コンフィグ一括反映]画面に遷移します。「ファイルを選択」ボタンを押下します。



③ 反映したいコンフィグファイルを選択します。
製品シリーズにより、コンフィグファイルの形式が異なりますのでご注意ください。



④ AE シリーズのみ、コンフィグファイルの選択の完了後、コンフィグファイルからの反映を**したくない**設定項目がある場合は、【適用除外項目の選択】にて、チェックを入れて「反映」ボタンを押下します。

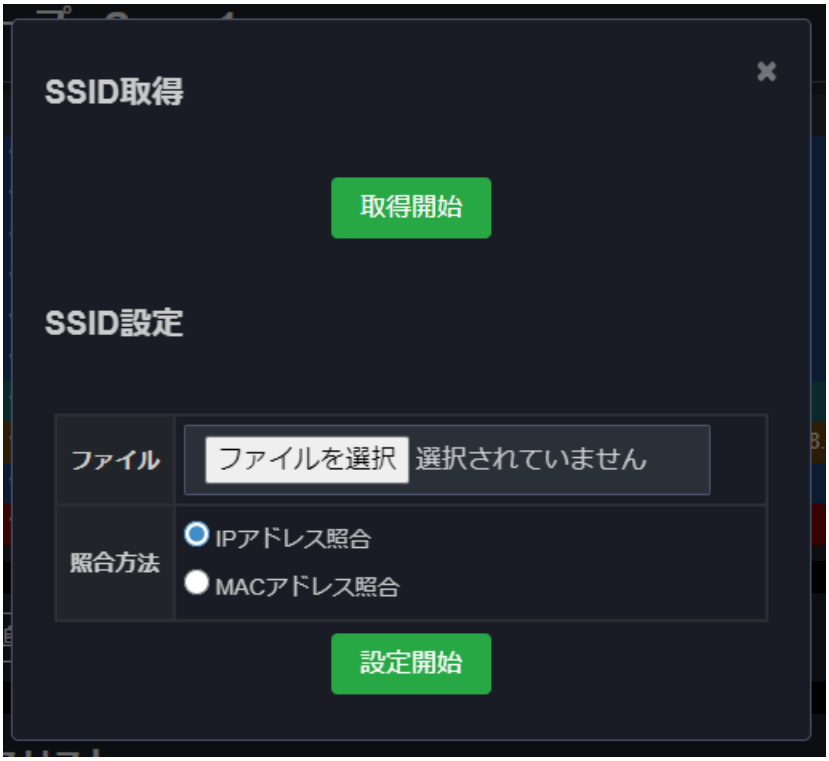


8.5.9 SSID 設定

チェックしたデバイスの SSID 設定を CSV ファイルで取得、また CSV ファイルからの反映を行います。
FXC 対応製品の内、「無線 LAN ルータ/アクセスポイント(AE シリーズ)」(=「AE1041/51」「AE5411PA」)が対応しています。

① プルダウンから「SSID 設定」を選択、「実行」ボタンを押下します。

② [SSID 設定]画面に遷移します。



SSID 取得

取得開始ボタンを押下すると、選択されたデバイスの SSID 情報を取得し、CSV ファイルとして保存されます。ファイル名は「fsv_ssidlist_(年月日)_(時分秒).csv」です。

SSID 設定

取得した CSV ファイルや、「FSW-CONFIG2」の SSID 設定にて取得した CSV ファイルを選択し、選択されたデバイスと照合します。照合が一致した機器に設定を反映します。
照合方法は「IP アドレス照合」と「MAC アドレス照合」が選択可能です。
ファイルを指定し、照合方法を選択後、設定開始ボタンを押下することにより SSID 設定が開始されます。
各デバイスの結果はシステムログに出力されます。

※ CSV ファイルに設定を行うデバイスが記載されていても、デバイスが選択されていなければ設定は行われません。

CSV ファイルの書式は以下の通りです。

桁		ヘッダ名	説明
1		product	デバイスの製品名です。 通常は書き換えないようにしてください。
2		ip	デバイスの IP アドレスです。 SSID 設定時、「IP アドレス照合」を選択した際にこの項目が参照されます。
3		ether addr	デバイスの MAC アドレスです。 SSID 設定時、「MAC アドレス照合」を選択した際にこの項目が参照されます。
4	繰り返し	2.4G / 5G SSID 1～4	各 SSID の設定を反映するか否かを指定します。 0 = 反映しない, 1 = 反映する **※SSID 取得時の初期値は0となります。そのため取得した CSV ファイルを設定として使用するには、この項目を 1 に変更する必要があります。**
5		enable	SSID の無効/有効を指定します。 0 = 無効, 1 = 有効
6		authmode	SSID の暗号化方式を指定します。 暗号化方式は以下を指定してください。 WPA2PSK, WPAPSK, WPA12PSK, WPA2EAP, WPA12EAP WEP,OPEN（左記 2 暗号方式は非推奨）
7		name	SSID 名を指定します。（1 文字～32 文字までの ASCII 文字:コード 21～7F）
8		wpapsk	WPAPSK キーを指定します（8 文字以上の ASCII 文字:コード 21～7F）

・1 行目はヘッダ名が入ります。（コメントとして扱われます）

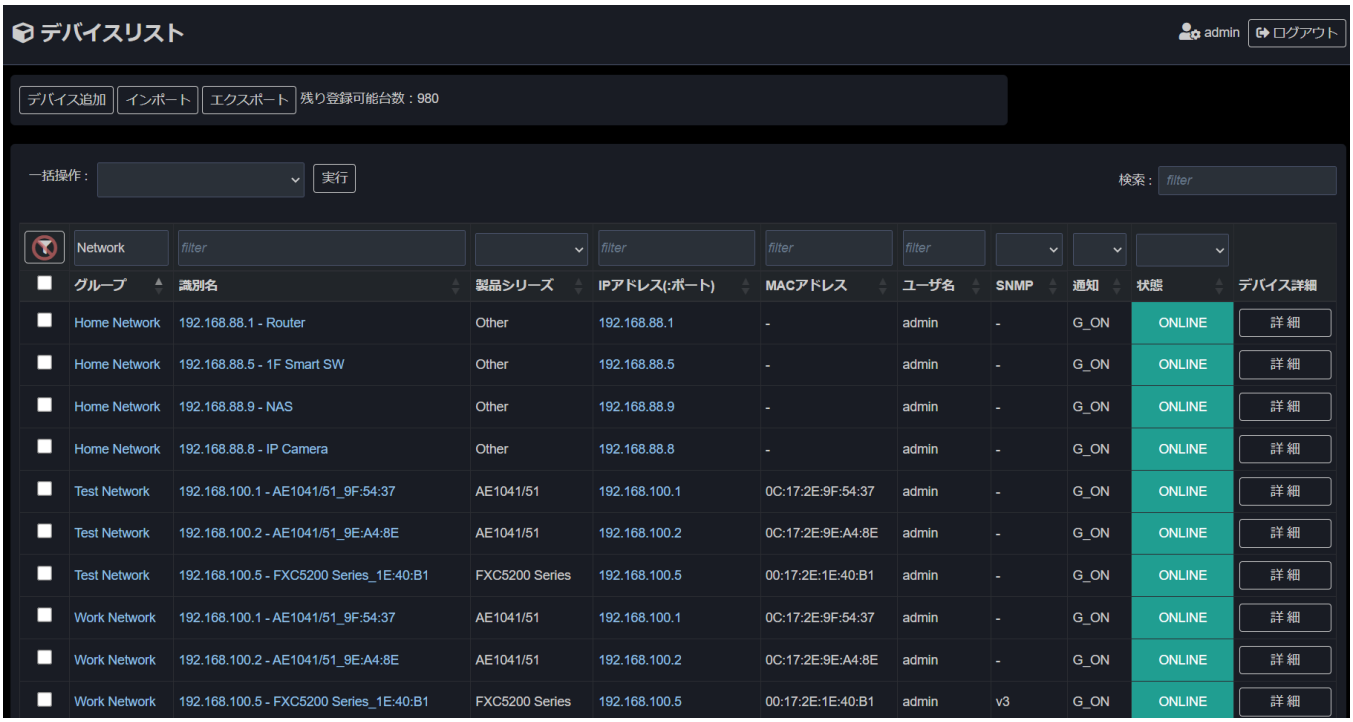
・2 行目以降に機器の SSID 設定が入ります。

・先頭の文字が「;」（セミコロン）の行はコメントとみなされます。

※ その他の設定（SSID の表示を見えなくするステルス設定や、ACL、WEP キー、RADIUS 設定など）は、本機能では設定できません。「個別設定」、「一括設定」で設定してください。

9 デバイスリスト画面

デバイスリストでは、本システムに登録したデバイスの管理を行うことができます。
IP アドレスをクリックすることで各デバイスの管理画面へ遷移することができます。
また、フィルタリング機能を使うことでデバイスを絞り込んで検索ができます。



項目	詳細
グループ	デバイスが登録されているグループ
識別名	デバイスの識別名
製品シリーズ	デバイスの製品シリーズ
IP アドレス:ポート	デバイスの IP アドレス および http(s)アクセス用ポート番号(80 = 非表示)
MAC アドレス	直近にて検出されたデバイスの MAC アドレス
ユーザ名	デバイスのユーザ名
SNMP	デバイスの SNMP バージョン
通知	デバイスの死活監視通知設定 ON　　：デバイス ON 設定 OFF　　：デバイス OFF 設定 G_ON　：グループ ON 設定 G_OFF　：グループ OFF 設定
状態	デバイスの状態
デバイス詳細	デバイスの詳細ページへ遷移します

9.1 デバイス追加

手動でデバイスを登録します。
追加方法は前述の「グループ詳細画面:デバイス追加」と同様となりますので参照ください。

※ デバイスリストでのデバイス追加は、作成済みのグループを指定します。
※ グループを指定しない場合は「default」グループに自動的に所属します。
「default」グループが存在しない場合は、自動的に作成されます。

9.2 インポート

デバイス設定 CSV ファイルをインポートします。
インポート方法は前述の「グループ詳細画面:インポート」と同様となりますので参照ください。

※ デバイスリストでのインポートでは、各デバイスの所属グループは CSV のグループ設定に従います。
グループが存在しない場合は自動的に作成されます。
※ CSV ファイルにグループの項目が無い場合は「default」グループに自動的に所属します。
「default」グループが存在しない場合は、自動的に作成されます。

9.3 エクスポート

「エクスポート」ボタンを押下することで、登録されているすべてのデバイス情報を CSV ファイルに出力します。

エクスポート方法は前述の「グループ詳細画面:エクスポート」と同様となりますので参照ください。

9.4 一括操作

デバイスリストでは、グループ詳細画面と同様の内容の一括操作が可能です。
詳細は、「グループ詳細画面:一括操作」を参照ください。

10 デバイス詳細画面

デバイスリスト画面内やグループ詳細画面内にて、
詳細を確認したいデバイス状態欄の「詳細」ボタンを押下すると、デバイス詳細画面に遷移します。

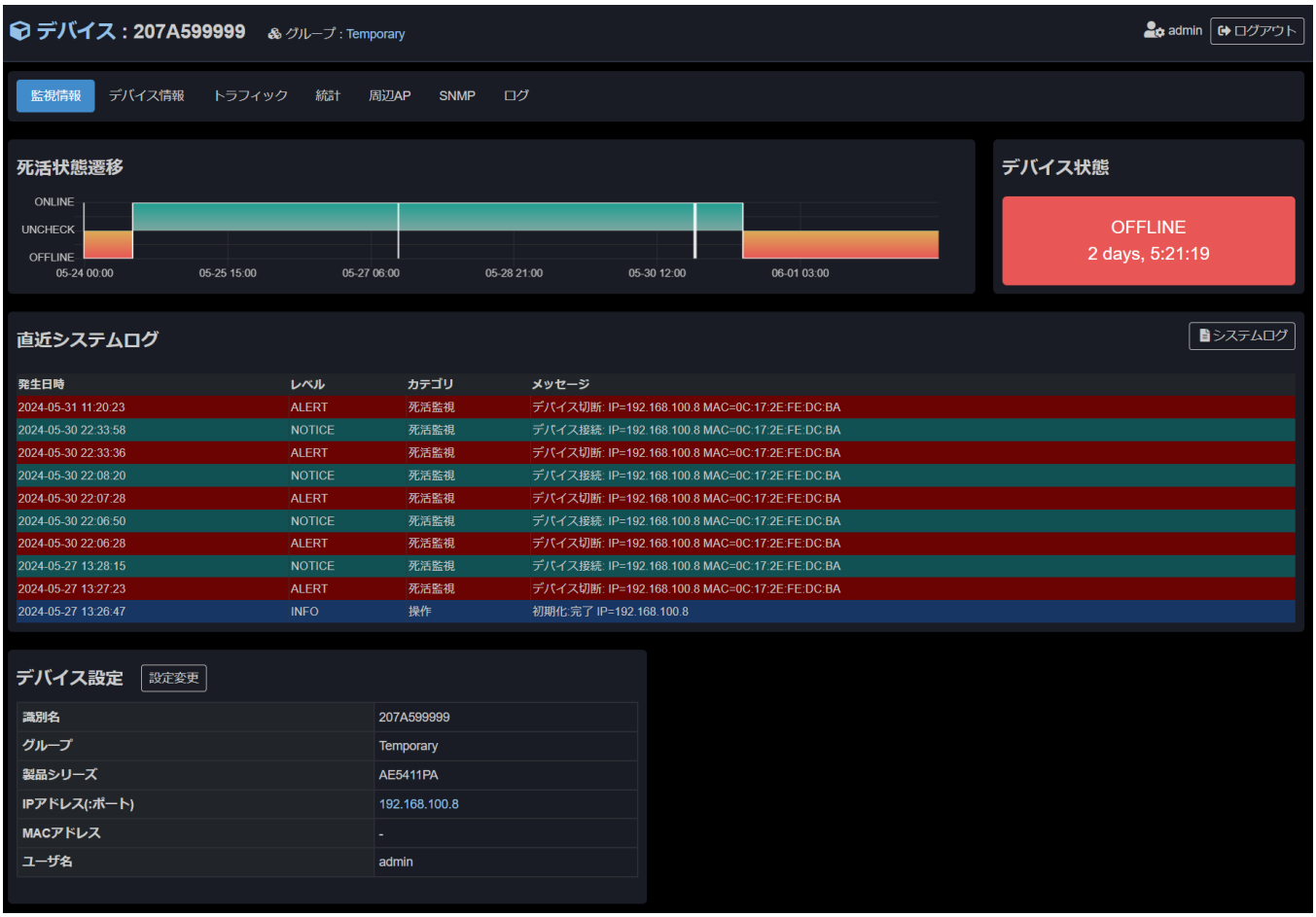
製品シリーズによる各画面の対応は「機能別対応表」をご参照ください。

デバイス詳細画面は、内容によっていくつかのページがあります。
ページ種類やページ数は製品シリーズにより異なります。
ページの遷移は識別名下のメニューから選択してください。

10.1 監視情報

該当のデバイスの監視情報を表示します。

当ページは全ての登録デバイスが対応しており、またデバイスの状態に関わらず表示します。



項目名	詳細
死活状態遷移	デバイスの死活状態の遷移を時系列グラフで表します。 グラフ右端が現在時刻となります。 死活状態遷移は200イベントまで記憶されます。
デバイス状態	現在のデバイスの死活状態を表示します。 また、現在の状態がどのくらい継続されているかを経過時間で表します。
直近システムログ	当該デバイスに関連する直近 10 件のシステムログを表示します。
デバイス設定	当該デバイスの管理設定情報を表示します。 また、「設定変更ボタン」を押下することで、設定の変更が可能です。 デバイス設定項目については「デバイス追加」を参照してください。

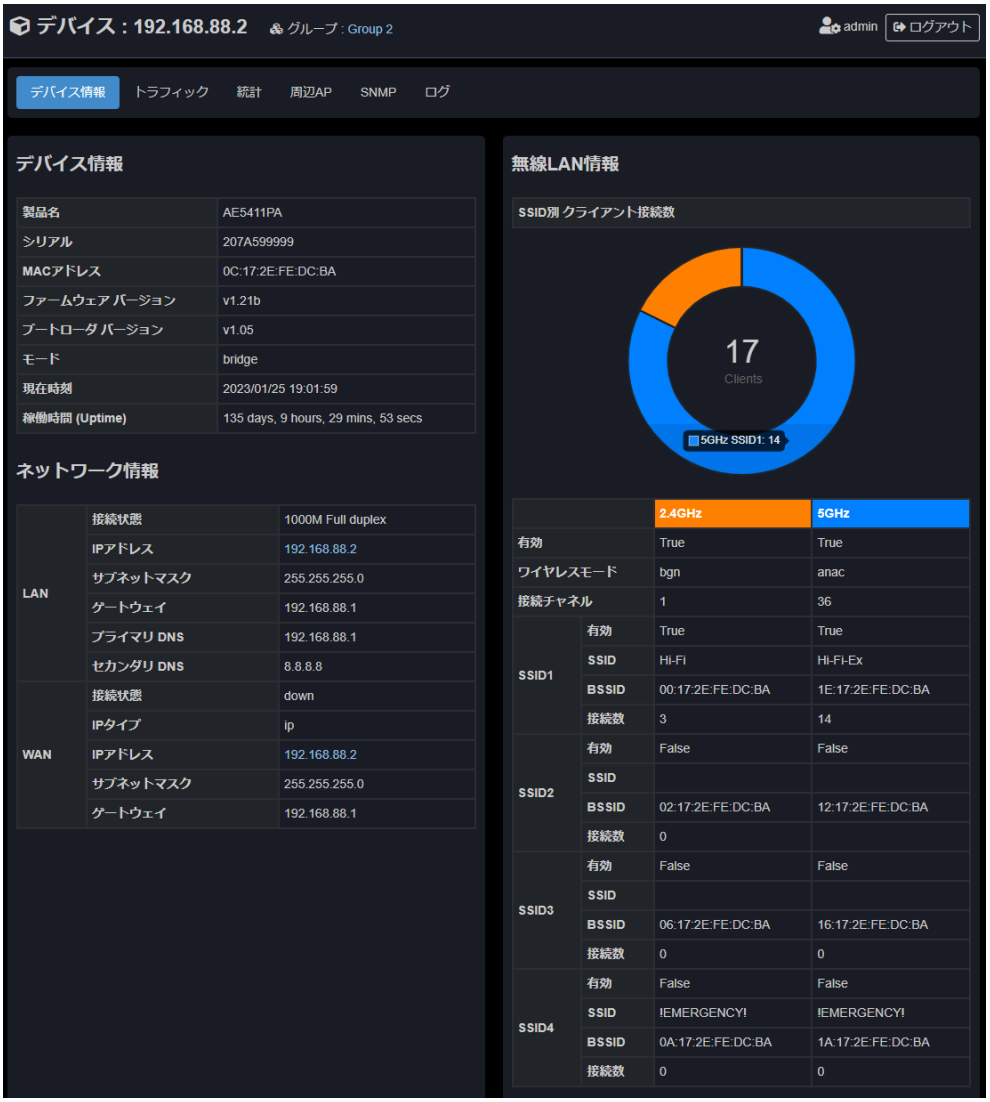
10.2 デバイス情報

該当のデバイスから情報を取得し表示します。

対応製品により表示される情報が異なります。

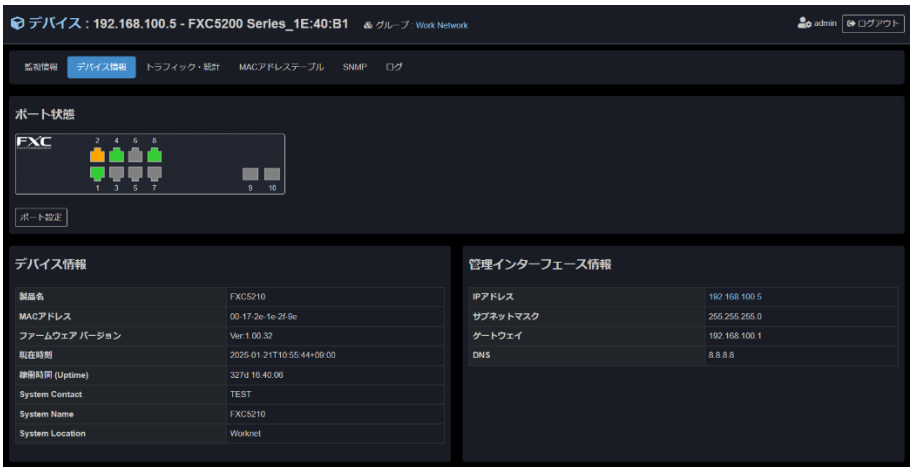
10.2.1 無線 LAN 製品

デバイス情報、ネットワーク情報の他、無線 LAN 情報も表示されます。



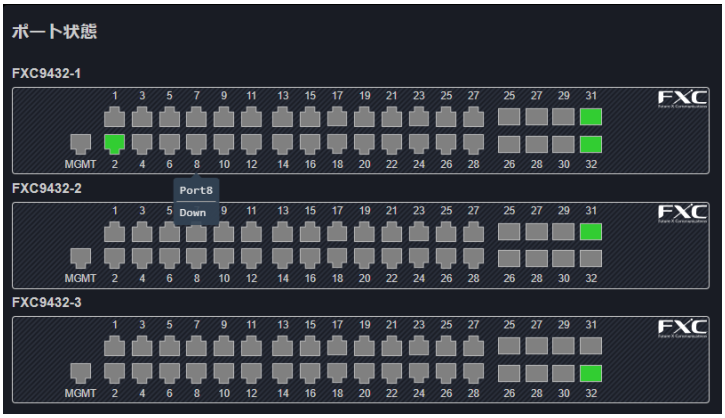
10.2.2 スイッチ製品

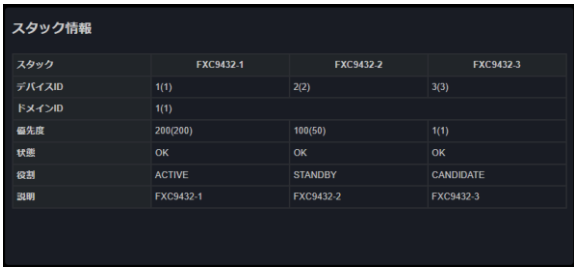
デバイス情報、管理インターフェース情報の他、各ポート状態が視覚的に確認できます。
それぞれのポートにマウスカーソルを合わせると後述のポートラベルおよび状態を確認できます。
ラベルの設定は「ポート設定」を参照してください。



● スタック状態

スタック機能に対応した製品はスタック情報および各スイッチの状態表示に対応しています。





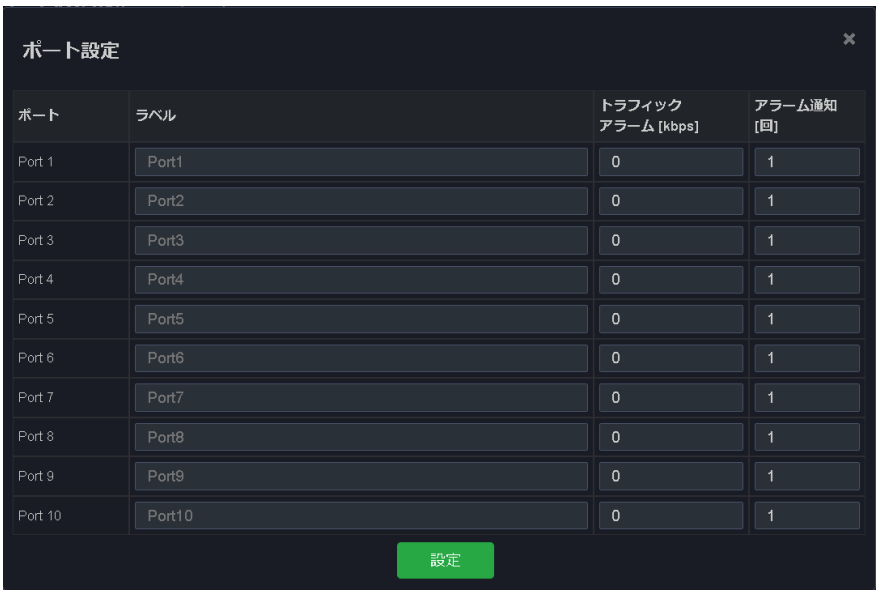
● PoE 給電状態

ポート状態に PoE 給電中の表示が追加されます。
※PoE 給電状態表示は FXCX5512PE のみ対応します。

10.2.3 ポート設定

対応するスイッチ製品は、ポート設定画面でポートラベルおよびトラフィック超過検出の設定を行うことができます。

ポート設定画面(FXC5210)



名称	説明
ラベル	ポートの名称を設定できます。 ポート状態画面でマウスカーソルを合わせた際にラベルとして表示されます。
トラフィックアラーム	トラフィック超過のしきい値を kbps で設定します。 0 に設定した場合はトラフィック超過検出は行いません。
アラーム通知	トラフィック超過と判定するデータ数を設定します。 しきい値を連続で超過した回数をカウントし、回数がこの値に達した際にトラフィック超過と判定します。

10.3 PoE

該当のデバイスの現在の PoE 状態やクラス、供給電力を表示します。

当ページは FXCX5512PE のみ対応しています。

10.4 トラフィック・統計

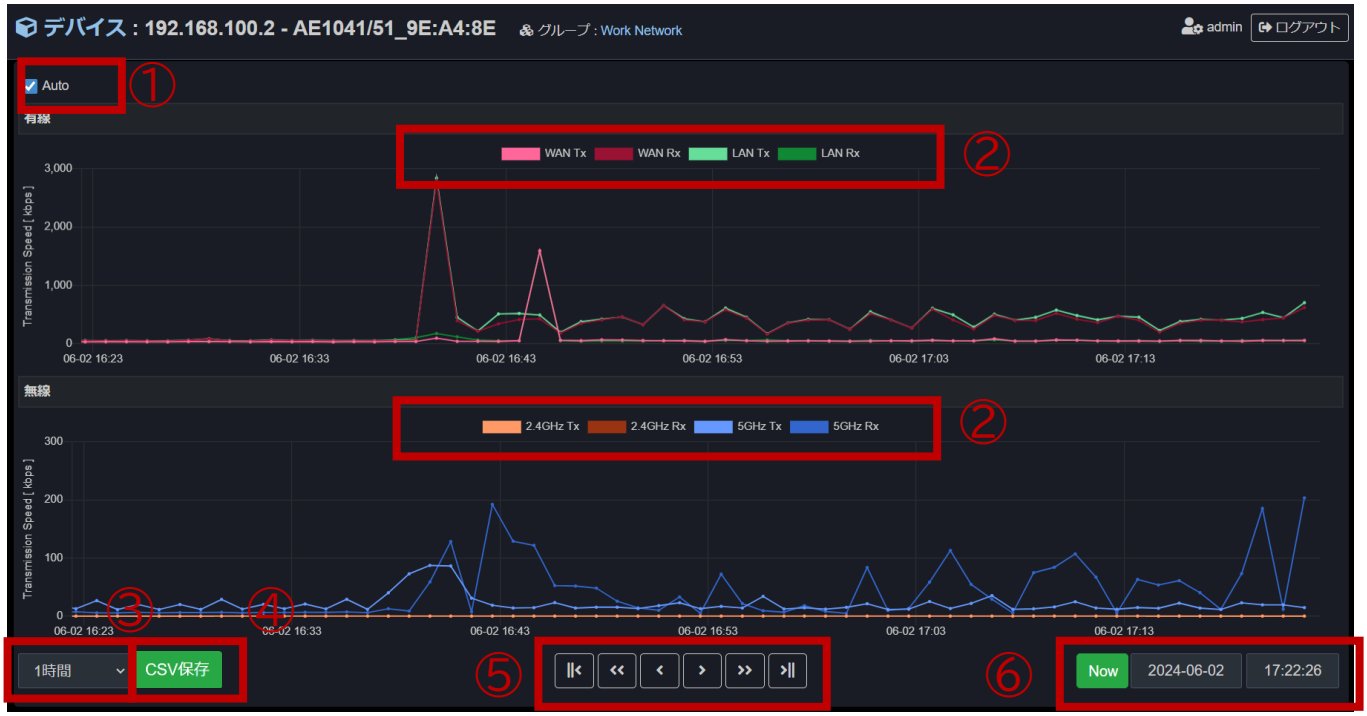
トラフィック状態や履歴をグラフ表示し、統計情報を一覧表示します。対応製品により表示される情報が異なります。

10.4.1 無線 LAN ルータ・アクセスポイント製品

AE5411PA, AE1041/51 が該当します。トラフィックと統計はそれぞれ別のページで表示されます。

トラフィック

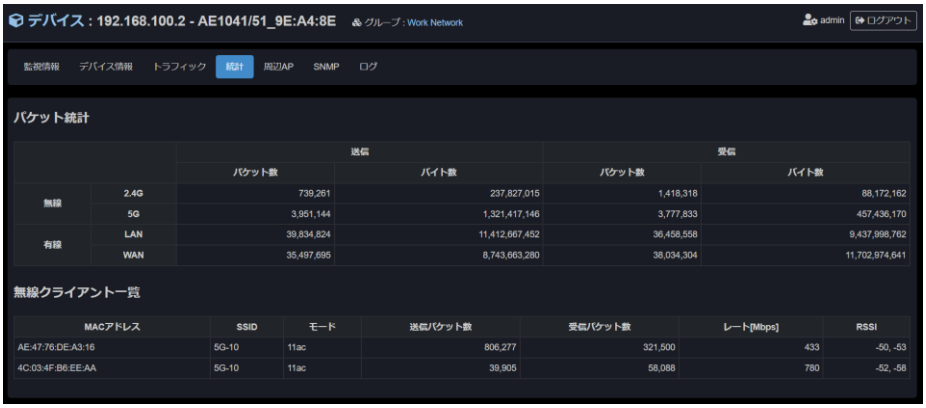
有線(WAN, LAN)、無線(2.4G, 5G)のグラフをそれぞれ表示します。



番号	詳細
①	チェックを外すと、通信速度の上限値を手動で設定できます。
②	トラフィック凡例をクリックすることで、表示/非表示を切り替えることができます。
③	トラフィック取得間隔を選択できます。
④	トラフィックデータを CSV 形式でダウンロードできます。
⑤	クリックすることで、保存している過去のデータから最新のデータを確認できます。
⑥	[Now]が緑色の場合:システム時間に合わせて表示します。 指定した日時を基準(右端)に表示します。

統計

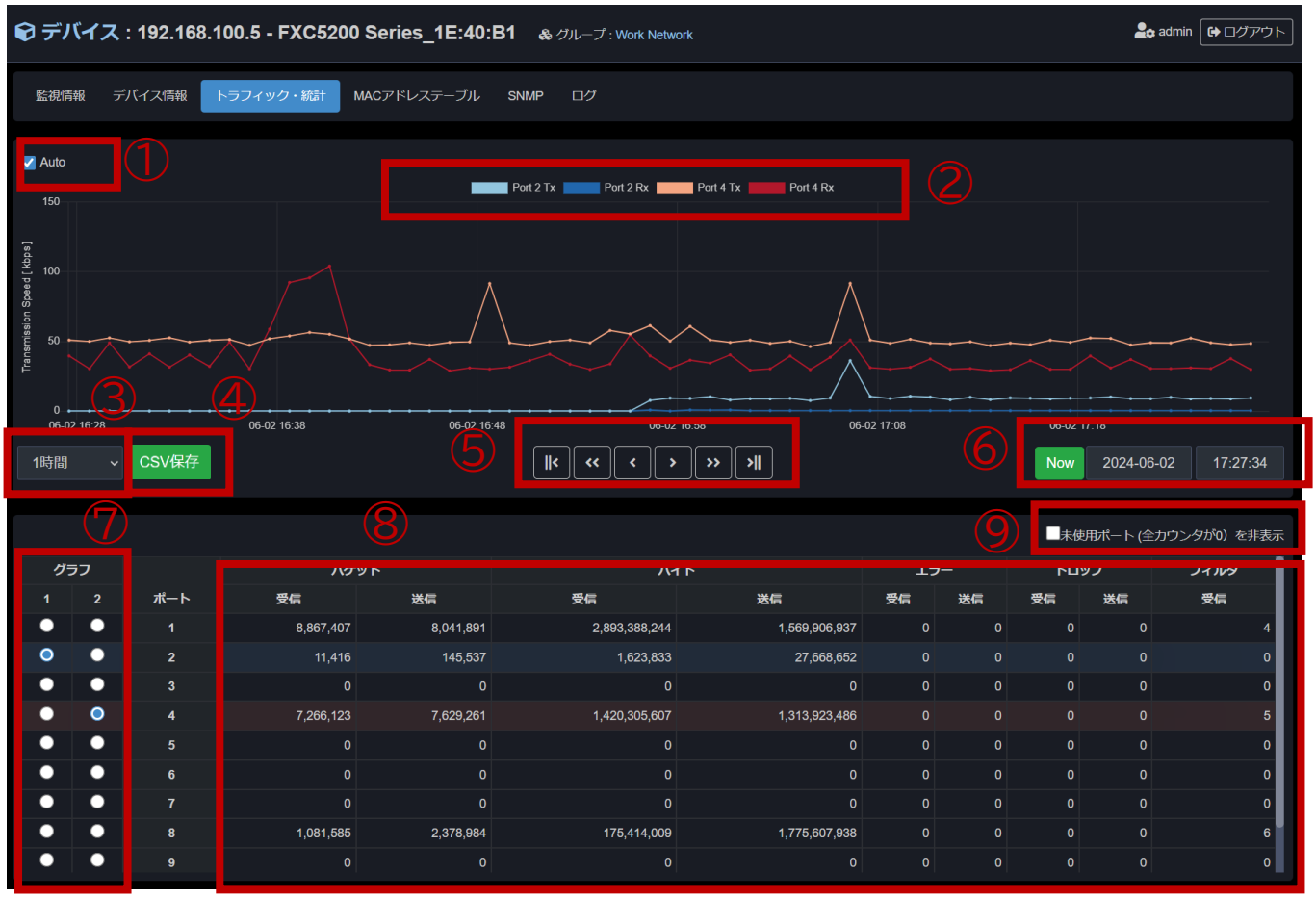
有線(WAN, LAN)、無線(2.4G, 5G)の統計情報、および現在接続中の無線クライアントの一覧を表示します。



10.4.2 スイッチ製品

FXC9432, FXCX9526F, FXC6500 シリーズ, FXCX5512PE, FXC5200 シリーズ が該当します。
トラフィックと統計は同じページで表示されます。

トラフィック・統計

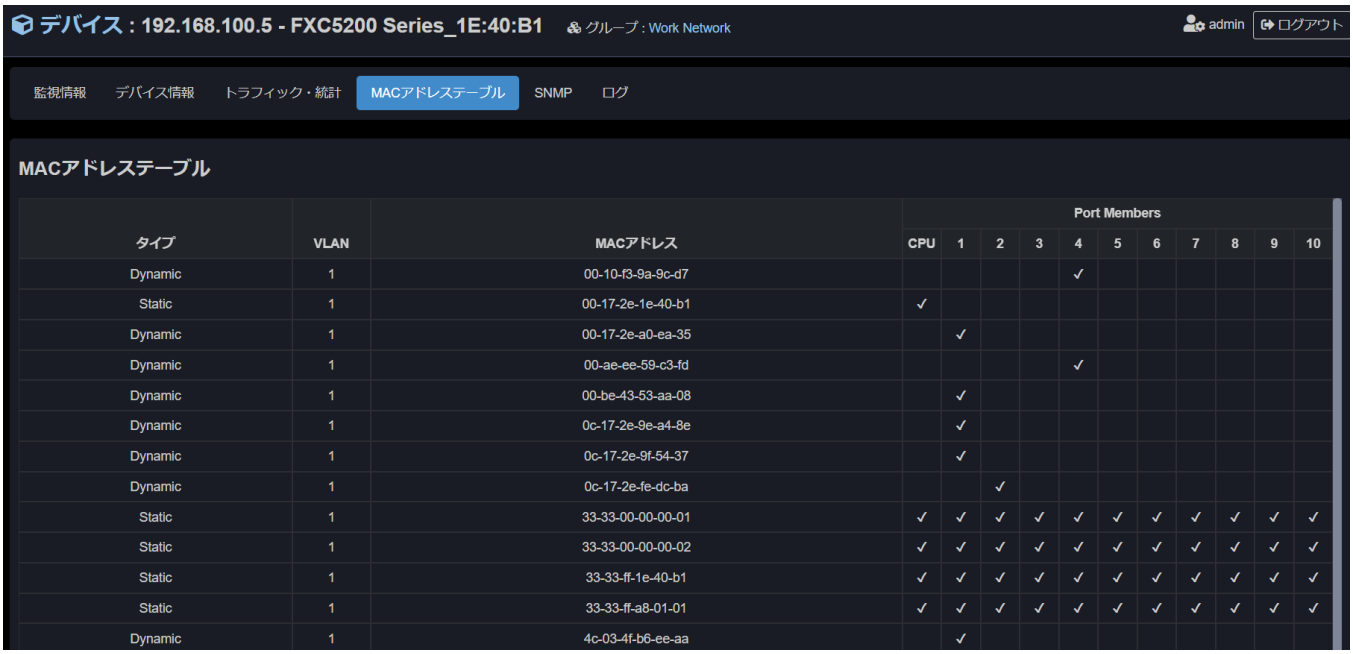


番号	詳細
①	チェックを外すと、通信速度の上限値を手動で設定できます。
②	トラフィック凡例をクリックすることで、表示/非表示を切り替えることができます。
③	トラフィック取得間隔を選択できます。
④	トラフィックデータを CSV 形式でダウンロードできます。
⑤	クリックすることで、保存している過去のデータから最新のデータを確認できます。
⑥	[Now]が緑色の場合:システム時間に合わせて表示します。 指定した日時を基準(右端)に表示します。
⑦	グラフ表示するポートを選択します。 グラフは 2 つまで選択可能です。(グラフ 1:青色系統、グラフ 2:赤色系統) 選択しているポートを再度クリックすることで非表示にすることが可能です。
⑧	各ポートの統計情報を表示します。
⑨	チェックを付けると、すべてのカウンタが 0 になっているポートが非表示になります。

スタック構成の場合、統計テーブルの上部にスタックを選択するタブが表示されます。

10.5 MAC アドレステーブル

L2 スイッチ及び L3 スイッチ製品の MAC アドレステーブルを表示します。
表示項目や表示方法は、各製品の表示に準拠します。
例)FXC5200 シリーズ

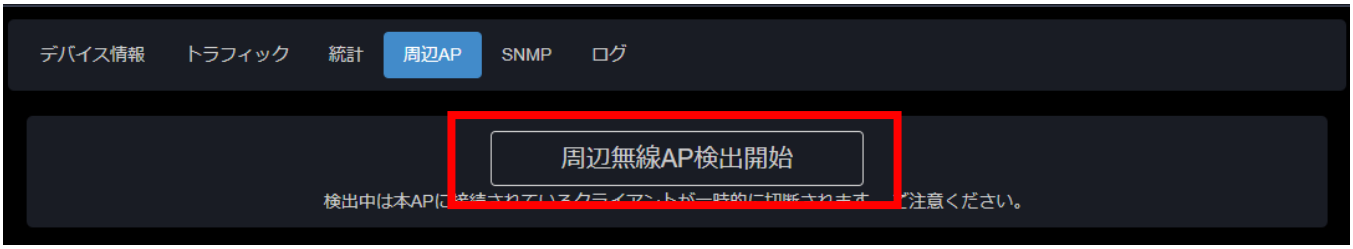


タイプ	VLAN	MACアドレス	Port Members									
			CPU	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
Dynamic	1	00-10-f3-9a-9c-d7					✓						
Static	1	00-17-2e-1e-40-b1	✓										
Dynamic	1	00-17-2e-a0-ea-35		✓									
Dynamic	1	00-ae-ee-59-c3-fd					✓						
Dynamic	1	00-be-43-53-aa-08		✓									
Dynamic	1	0c-17-2e-9e-a4-8e		✓									
Dynamic	1	0c-17-2e-9f-54-37		✓									
Dynamic	1	0c-17-2e-fe-dc-ba			✓								
Static	1	33-33-00-00-00-01	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
Static	1	33-33-00-00-00-02	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
Static	1	33-33-ff-1e-40-b1	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
Static	1	33-33-ff-a8-01-01	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
Dynamic	1	4c-03-4f-b6-ee-aa		✓									

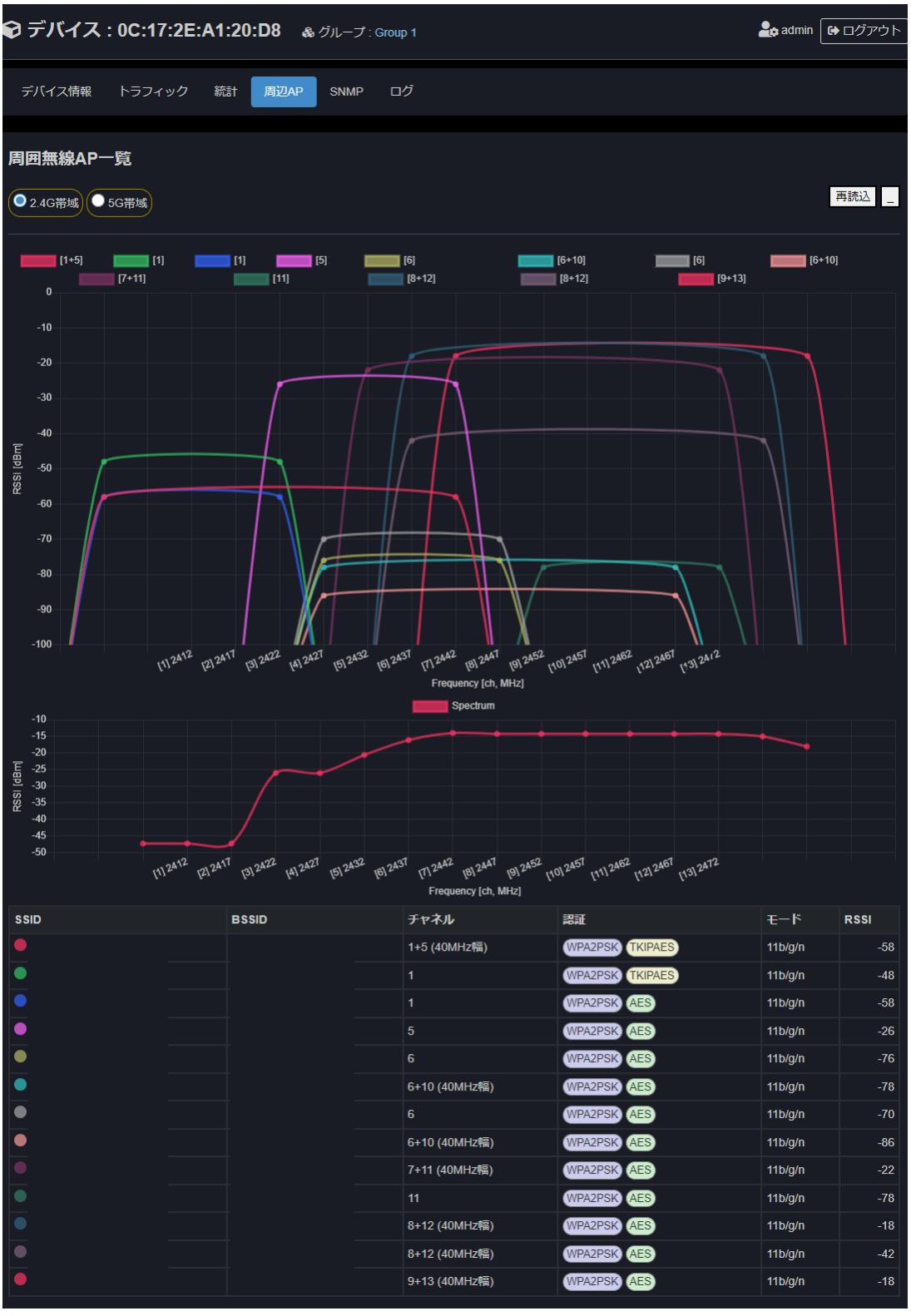
10.6 周辺 AP

AEシリーズを登録している場合、周辺にある無線アクセスポイントを検出することができます。
なお、検出中は該当のデバイスに接続しているクライアントとの**通信が一時的に遮断されます**ので、ご注意ください。

① 「周辺無線AP検出開始」ボタンを押下します。



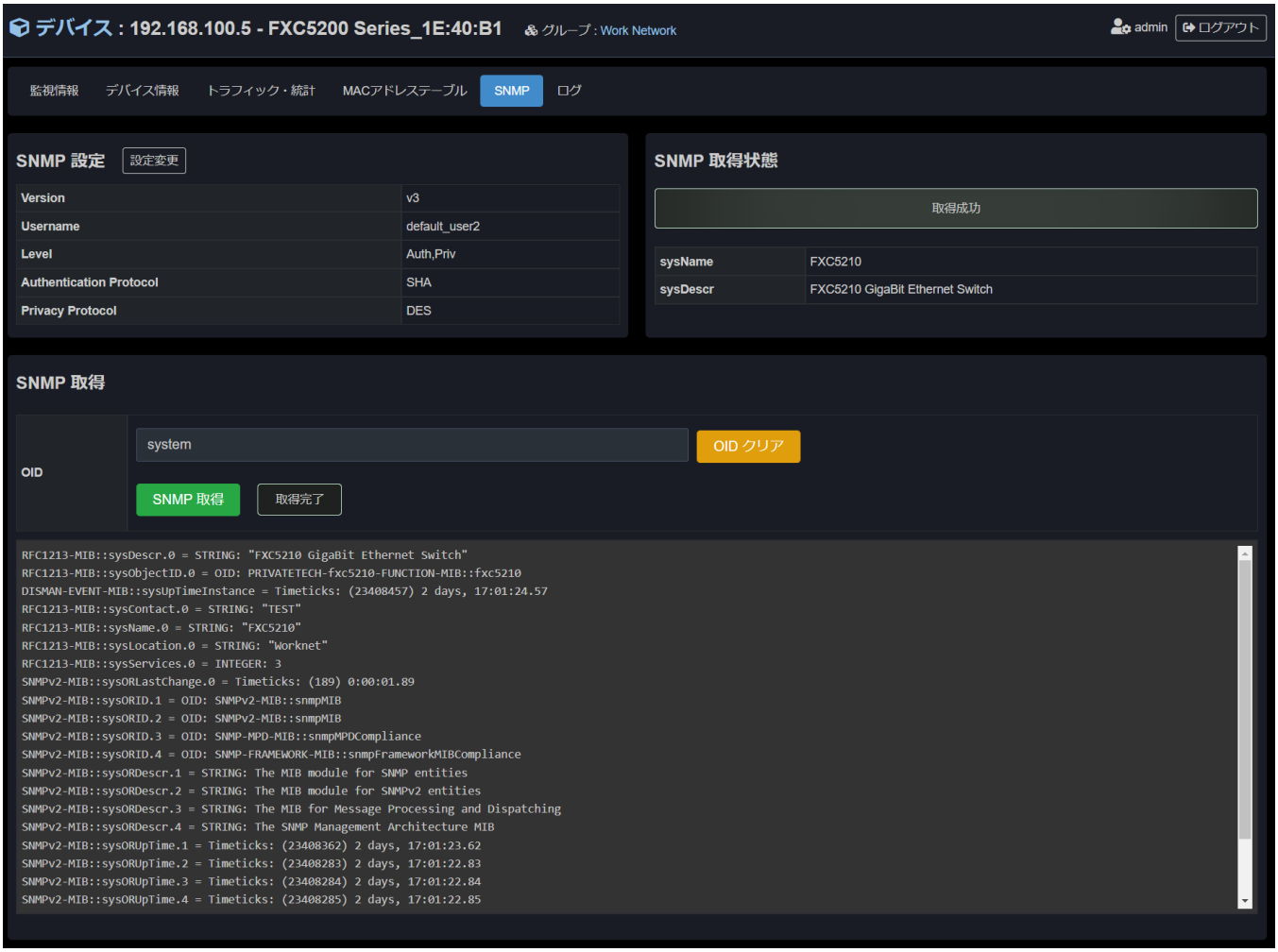
② 検出が完了すると下図のような画面が表示されます。
ラジオボタンにて2.4G帯域と5G帯域を切り替えて確認することができます。



10.7 SNMP

登録デバイスの SNMP 情報を設定、取得します。

当画面は全ての登録デバイスが対応しています。

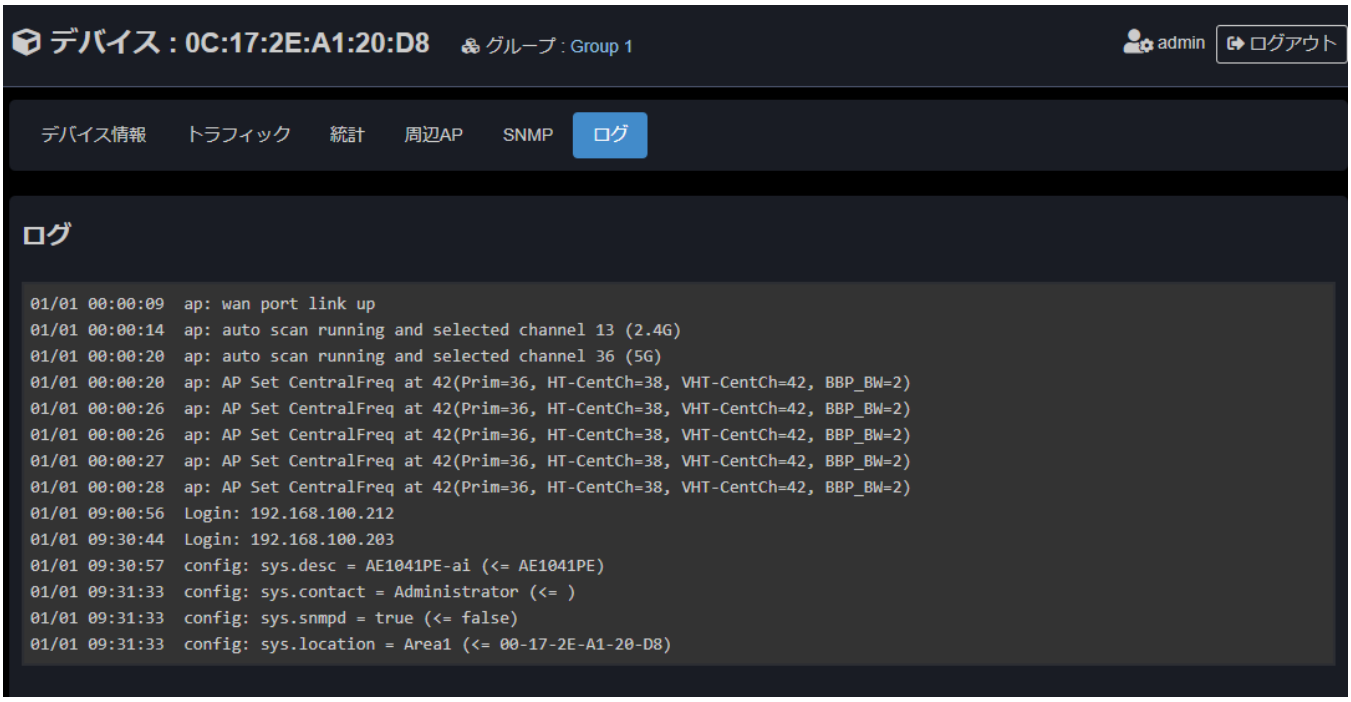


項目名	詳細
SNMP 設定	当該デバイスの SNMP 設定情報を表示します。 また、「設定変更ボタン」を押下することで、設定の変更が可能です。 SNMP 設定項目については「SNMP 設定変更」を参照してください。
SNMP 取得状態	現在の SNMP 設定にて SNMP 情報取得の成功/失敗を表示します。 成功時は sysName および sysDescr を取得、表示します。 失敗時はエラーメッセージを表示します。 エラーメッセージを参考に、当システムおよび取得先デバイスの SNMP 設定を確認して下さい。
SNMP 取得	SNMP 取得が成功している状態時、OID を指定して SNMP を取得することが可能です。 入力欄は自由に入力できるほか、用意されているいくつかの MIB 名や OID から選択可能です。 入力欄が空欄の場合、iso にて取得を行います。 入力後、「SNMP 取得」を行うことで取得が開始され、取得状況が表示されます。 入力欄のクリアは「OID クリア」ボタンを押下して下さい。

10.8 ログ

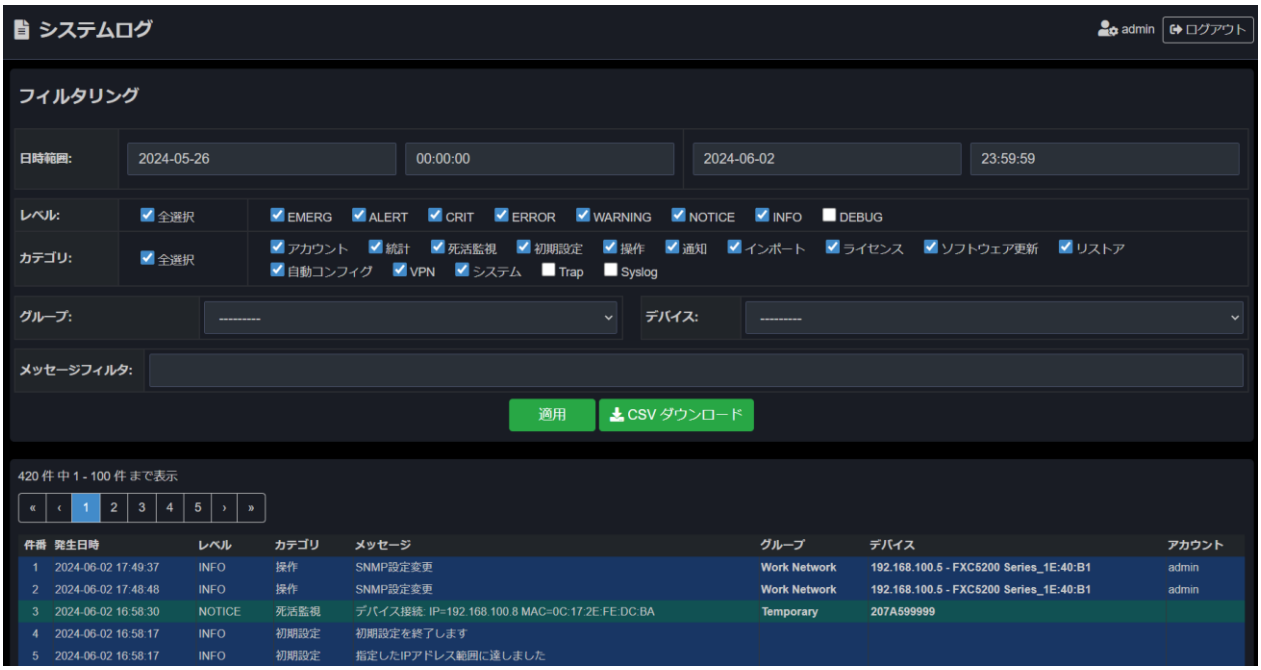
該当のデバイスのログを取得し、表示します。

表示項目や表示方法は、各製品のログ表示に準拠します。



11 システムログ

システムログページでは、本システムのシステムログを閲覧できます。
フィルタリング機能を使うことで、日時の指定や、レベル、種別などの指定が可能です。
また、CSV ファイルとしてシステムログのダウンロードが可能です。



フィルタリング

項目名	詳細
日時範囲	システムログの表示日時範囲を設定します。 右側の日時から表示が開始され、左側の日時で表示が終了します。
レベル	システムログのレベルでフィルタリングを行います。 チェックを外すと表示から除外されます。 全選択のチェックボックスを操作することで、全選択と全解除の操作が可能です。
カテゴリ	システムログのカテゴリでフィルタリングを行います。 チェックを外すと表示から除外されます。 全選択のチェックボックスを操作することで、全選択と全解除の操作が可能です。
グループ	システムログのグループでフィルタリングを行います。 プルダウンからグループの選択を行ってください。 複数グループの選択はできません。また、デバイスフィルタリングとの併用はできません。
デバイス	システムログのデバイスでフィルタリングを行います。 プルダウンからデバイスの選択を行ってください。 複数デバイスの選択はできません。また、グループフィルタリングとの併用はできません。
メッセージフィルタ	メッセージ内の任意の文字に絞ってフィルタリングを行います。 フィルタリングを行わない場合は空欄にしてください。

システムログ表示

フィルタリングの設定後、「適用」ボタンを押下することでシステムログが表示されます。(1 ページ 100 件ずつ)
また、存在するグループやデバイスをクリックすることで、グループ詳細画面やデバイス詳細画面に遷移します。

CSV ダウンロード

「CSV ダウンロード」ボタンを押下することで、現在のフィルタリング設定のままシステムログを CSV ファイルとしてダウンロードします。

12 システム設定

システム設定では、ネットワーク設定/通知設定/アカウント設定/リモートメンテナンス VPN 設定/設定管理/ライセンス更新/本システムのソフトウェア更新/システムの再起動や停止を行うことができます。

12.1 システムネットワーク設定

ネットワークページは、本システムの IP アドレス等の設定ができます。
設定可能項目は下表を参照ください。

項目		詳細
LAN ポート 1	IP 取得方法	本システムの IP アドレスの設定方法(IP 固定/DHCP)を選択します。
	IP アドレス	本システムの IP アドレスを入力します。 初期設定は DHCP になりますので、お使いの DHCP サーバの設定に依存します。
	プレフィックス (サブネットマスク)	本システムのサブネットマスクを選択します。
	デフォルトゲートウェイ	本システムのデフォルトゲートウェイを入力します。
	DNS(プライマリ/セカンダリ)	本システムの DNS(プライマリ/セカンダリ)を入力します。
LAN ポート 2 (固定 IP のみ)	有効	チェックボックスにチェックを入れると、LAN ポート 2 が有効になります。
	IP アドレス	LAN ポート 2 の IP アドレスを入力します。
	プレフィックス (サブネットマスク)	LAN ポート 2 のサブネットマスクを選択します。
	本機へのアクセスを許可	チェックボックスにチェックを入れると、LAN ポート 2 のネットワークから本システムへのアクセスを許可します。

12.1.1 ホスト名設定

ホスト名設定は、本システムにアクセスする際のホスト名を設定します。また、メール通知の際に件名もしくは本文にホスト名を変数として挿入することができます。

12.1.2 HTTPS 設定

HTTPS 設定は、本システムへのアクセスに HTTPS を使用する際に設定します。

項目	詳細
HTTPS を使用する	有効にすると、本システムに HTTPS でアクセスできるようになります。 (HTTP でのアクセスは HTTPS にリダイレクトされます) なお、サーバ証明書がない場合は証明書の発行を行います。
サーバ証明書情報	HTTPS でアクセスする際に使用するサーバ証明書の情報です。
証明書(再)発行	サーバ証明書を発行するポップアップウィンドウを表示します。すでにサーバ証明書がある場合は、新たに発行した証明書で上書きします。
証明書ダウンロード	サーバ証明書をダウンロードします。ダウンロードしたサーバ証明書を PC もしくはブラウザにインストールすることで本システムへのアクセスを信頼されたものとして登録することができます。

※ 証明書がインストールされていない状態で HTTPS アクセスした場合に、ブラウザの機能によりセキュリティに関する警告が表示される場合があります。

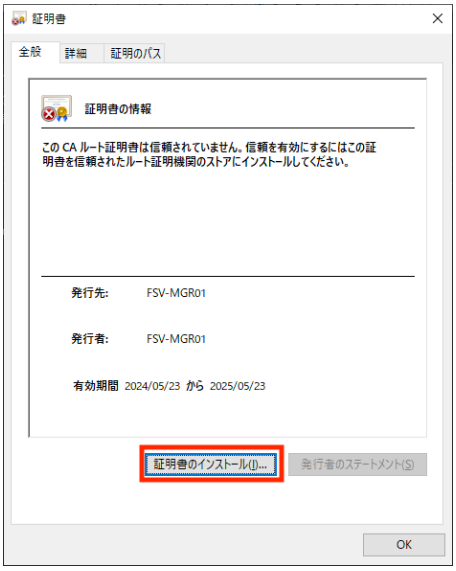
※ 証明書は「ホスト名・アドレス」欄に表示された名前でアクセスする場合のみ有効です。IP アドレスやホスト名を変更した場合は、再度証明書の発行・インストールを行う必要があります。

ポップアップウィンドウ(証明書発行)

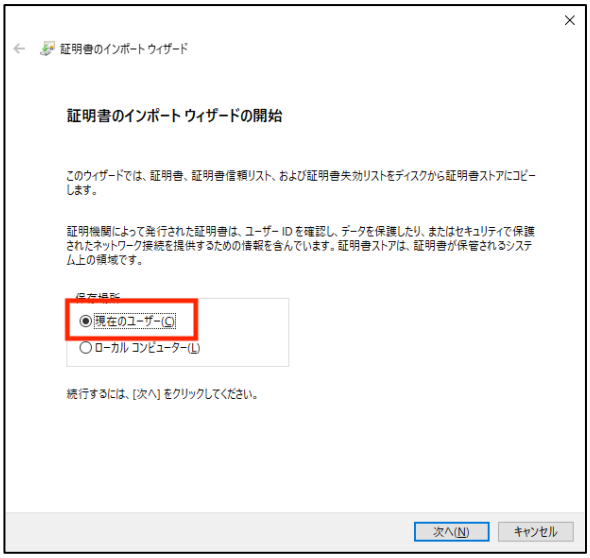
項目	詳細
有効期間(日)	発行する証明書の有効期間を日数で入力します。

サーバ証明書のインストール手順（Windows）

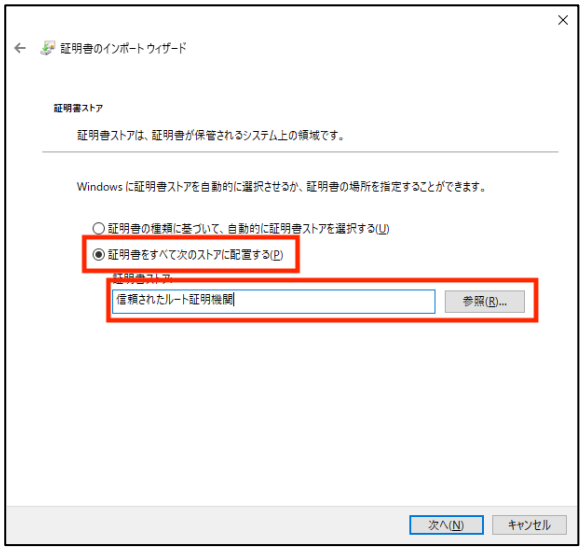
1. ダウンロードした証明書(.crt ファイル)をダブルクリックします。
2. 「証明書のインストール」をクリックします



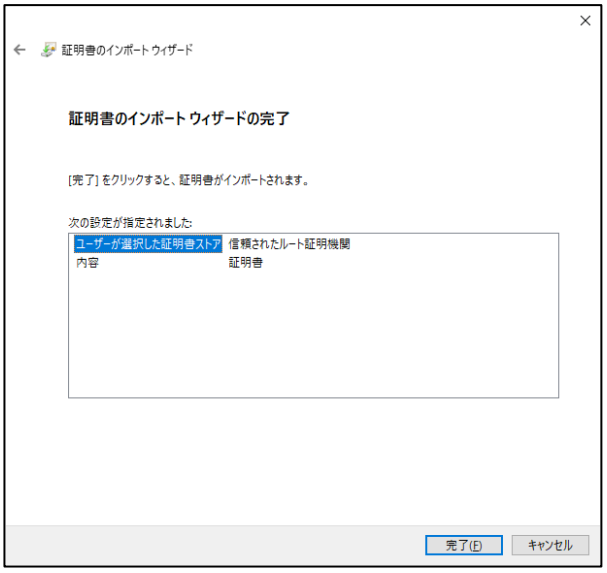
3. 「現在のユーザー」を選択し、「次へ」をクリックします。



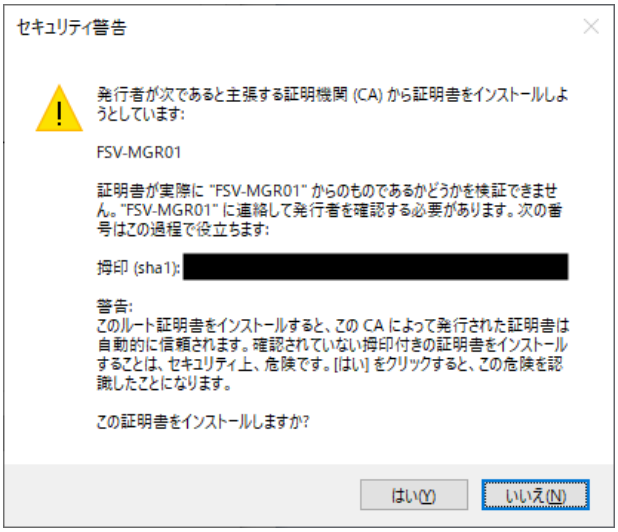
4. 「証明書をすべての次のストアに配置する」を選択し、「証明書ストア」の「参照」から「信頼されたルート証明機関」を選択し、「次へ」をクリックします。



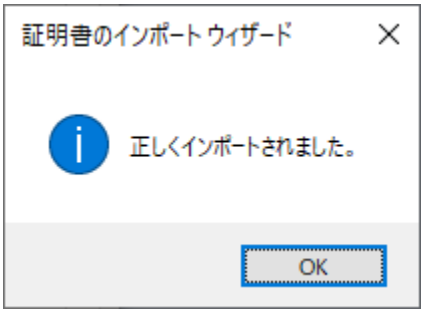
5. 「完了」をクリックします。



6. 「はい」をクリックします。



7. 「OK」をクリックします。

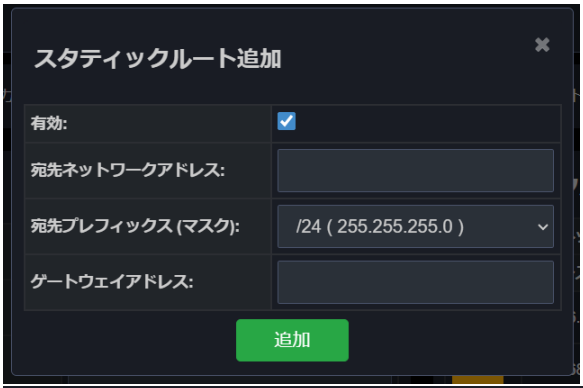


12.1.3 スタティックルート設定

スタティックルート設定は、システムネットワーク設定で設定したデフォルトゲートウェイ以外のルーティングを手動で設定したい場合に使用します。
デフォルトでは到達できないルートに存在するデバイスを管理する場合などに設定してください。
スタティックルートは 10 ルートまで設定可能です。

項目	詳細
追加ボタン	スタティックルートを追加するポップアップウィンドウを表示します。
状態(有効/無効ボタン)	スタティックルートの有効/無効の状態を表示します。 クリックすることで有効/無効を反転します。
宛先ネットワーク アドレス プレフィックス(マスク)	設定されたスタティックルーティングの宛先を表示します。
ゲートウェイアドレス	設定された宛先ネットワークへのゲートウェイのアドレスを表示します。
操作 編集ボタン 削除ボタン	該当する行の設定を編集/削除します。 編集時は追加時と同様のポップアップウィンドウを表示します。

ポップアップウィンドウ(スタティックルート追加/編集)



項目	詳細
有効	チェックボックスにチェックを入れると有効となります。
宛先ネットワークアドレス	設定する宛先ネットワークの IP アドレスを入力します。
宛先プレフィックス(マスク)	設定する宛先ネットワークのプレフィックス(サブネットマスク)を選択します。
ゲートウェイアドレス	設定する宛先ネットワークへのゲートウェイのアドレスを表示します。
追加(適用)ボタン	入力された設定値でスタティックルートを追加(編集時は適用)します。

12.1.4 プロキシ設定

プロキシ環境下において、リモートメンテナンス VPN やオンラインソフトウェア更新、メール通知などの機能を使用したい場合に設定します。

各プロキシを使用する機能は以下の通りです。

プロキシ	使用する機能
HTTP Proxy	リモートメンテナンス VPN オンラインソフトウェア更新 ライセンス登録、更新確認
SOCKS Proxy	メール通知

項目	詳細
有効	チェックボックスにチェックを入れると有効となります。
サーバ IP	プロキシサーバの IP アドレスを指定します。
サーバポート	プロキシサーバのポートを指定します。
ユーザ名(任意)	認証プロキシを使用している場合、ユーザ名を指定します。
パスワード(任意)	認証プロキシを使用している場合、パスワードを指定します。

12.2 通知設定

登録したデバイスもしくは本システムに何らかのアクションが発生した場合、メールもしくは Syslog にて通知を行います。

12.2.1 メール通知設定

メール通知の設定を行います。

通知に使用するメール設定を 5 件まで設定することができます。

項目	詳細
有効	チェックボックスにチェックを入れると、メール通知が有効になります。
FSV アカウント使用	チェックボックスにチェックを入れると、予め用意されたアカウントを用いてメール通知を行います。 メール通知の際 From アドレスが [fsv-mgr@fxc.jp] になります。
SMTP サーバ(※)	メール送信に使用する SMTP サーバを指定します。
ポート(※)	メール送信に使用するポート番号を指定します。
SSL 使用(※)	チェックボックスにチェックを入れると、SSL(Secure Sockets Layer)が有効になります。
ユーザ ID(※)	メールサーバのユーザ ID を指定します。
パスワード(※)	メールサーバのパスワードを指定します。
From アドレス(※)	送信アドレスを指定します。
To アドレス	受信アドレス(カンマ区切りで複数アドレスの指定可) を指定します。
Cc アドレス	Cc アドレス(カンマ区切りで複数アドレスの指定可) を指定します。
件名	メール通知の件名を指定します。 「テンプレート」ボタンを押すことで、初期設定を適用することができます。
本文	メール通知の本文を指定します。 「テンプレート」ボタンを押すことで、初期設定を適用することができます。
通知除外設定	通知の際に除外する項目を選択します。(詳細は後述)

※ FSV アカウントを使用する場合には、不要となるため非表示となります。

設定終了後は画面下部の「適用」ボタンを押下することで、設定が適用されます。

メールの件名と本文には以下の変数が使用可能です。

変数名称	詳細
$DATETIME	日時を表示(YYYY/MM/DD hh:mm:ss)
$LEVEL	ログレベル
$CATEGORY	ログカテゴリ
$MESSAGE	メッセージ
$GROUP	グループ名称
$DEVICE	デバイス名称
$ACCOUNT	操作アカウント名
$HOSTNAME	ホスト名
$URL	対象機器の URL

また、画面最下部の「メール通知テスト」ボタンを押下することで、メール通知の送信テストを行うことができます。

12.2.2 Syslog 通知設定

Syslog 通知の設定を行います。

通知先の Syslog サーバを 4 つまで設定できます。

項目	詳細
有効	チェックボックスにチェックを入れると、指定した Syslog サーバへの通知が有効になります。
Syslog サーバ	通知を送信する Syslog サーバを指定します。
ポート	Syslog 通知に使用するポート番号を指定します。
通知除外設定	通知の際に除外する項目を選択します。(詳細は後述)

設定終了後は画面下部の「適用」ボタンを押下することで、設定が適用されます。

12.2.3 通知除外設定

メールおよび Syslog 通知の際に除外するレベルとカテゴリを選択します。

チェックボックスにチェックを入れたレベル・カテゴリのアクションの**通知は行われません。**

12.3 定期レポート

監視対象機器(トラフィック情報を取得可能なもの)のトラフィック履歴を定期的にメールで送付します。

項目	詳細
有効	チェックをいれると定期レポート機能が有効になります。
期間	レポートの対象となる期間を 1 日、1週間、1ヶ月から選択します。
送付先	レポートの送付先をメール通知設定から選択します。
送信時刻	レポートを送付する時刻を設定します。

12.4 アカウント

12.4.1 アカウント一覧

本システムにアクセスするアカウントを最大で 20 設定できます。

アカウントごとに権限を付与し、一部機能に制限を掛けることができます。

詳細は下表を参照ください。

権限	詳細
監視者	グループ及びデバイス状態閲覧
操作者	監視者権限 + グループ及びデバイス設定変更、ツール操作
管理者	操作者権限 + システム設定変更、ソフトウェア及びライセンス更新

※ 操作者および監視者の権限でログインした場合、システム設定・ツールは非表示となりますのでご注意ください。

設定可能項目は下表を参照ください。

項目	詳細
ユーザ名	ユーザ名を設定できます。
パスワード	パスワードを設定できます。 入力時はセキュリティ上、伏字となります。
メールアドレス	入力は任意ですが、パスワードリセット時に使用しますので 入力を推奨します。
権限	管理者・操作者・監視者のいずれかから選択できます。

ユーザ名、パスワード、メールアドレス、権限を設定し、追加(編集の場合は適用)ボタンを押下します。
(ユーザ名・パスワードともに 32 文字以内、英数字・記号・日本語設定可)

12.4.2 セッション時間

本システムはブラウザにて一定時間操作が無い場合、セッションを自動的に切断します。
党項目はセッションを切断するまでの時間を設定します。

設定可能範囲:0 または 10 – 99999 (分)
0 を指定した場合、セッションはブラウザを閉じるまで継続されます。

12.5 リモートメンテナンス VPN

本システムは Virtual Private Network(以降 VPN)を利用することができます。
VPN 接続の詳細については別冊の「リモートメンテナンス VPN 設定マニュアル」を参照してください。

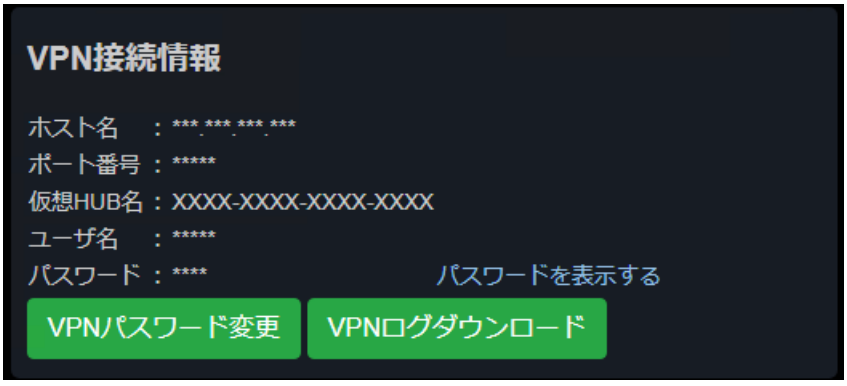
① 「オンラインにする」ボタンを押下します。
② 「リモートメンテナンス VPN 設定マニュアル」を参照して、クライアント PC で VPN 接続情報を設定を行います。

12.5.1 ステータス

VPN のステータスの確認と、オンライン／オフラインの切り替えを行います。

12.5.2 VPN 接続情報

VPN クライアント接続マネージャに入力する接続情報の確認、VPN パスワードの変更、ログのダウンロードを行います。



12.6 設定管理

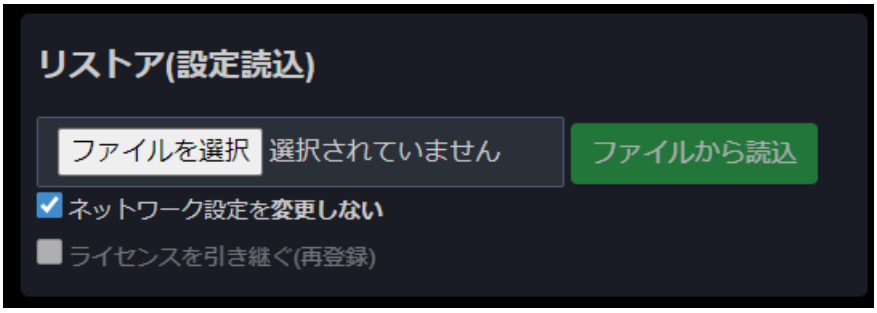
設定管理ページでは、グループリスト等の設定のバックアップと、リストアの他、FSW-CONFIG2 の
データベースのインポート、設定の初期化およびシステム診断報告ができます。

12.6.1 バックアップ

「ファイルへ保存」ボタンを押下すると、本システムが保存している現在の設定をファイルとして書き出しします。

12.6.2 リストア

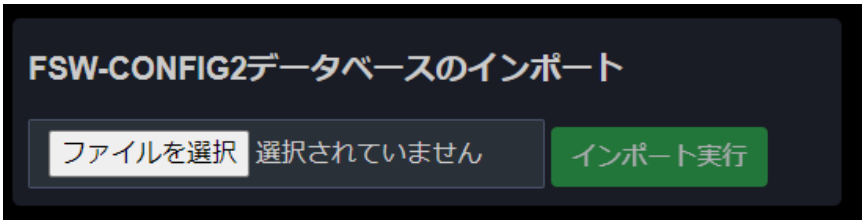
故障等によって本体が新しくなった場合、または、何らかの原因で本システムが保持していた設定が消えてしまった場合、リストア(設定読込)を行うことで設定の復旧が可能です。
※ あらかじめのバックアップファイルが必要です。バックアップの方法は前節を参照ください。



※「ライセンスを引き継ぐ」機能は、**ライセンス未登録の場合のみ**操作が可能となります。

12.6.3 FSW-CONFIG2 データベースのインポート

本システムに FSW-CONFIG2 のデータベースを本システムにインポートすることができます。
インポート時の注意事項は下記を参照ください。



※ デバイス、グループ、メール設定のみインポートします。
※ AE1041(PE)/51(PE)-ai・AE1050PE-ai は[AE Series]、AE1021(PE)/AE1031(PE)-ai とその他の AE シリーズは[Other]に振り分けられます。

12.6.4 初期化

本システムの初期化ができます。

全てのデバイス・グループを削除

本システムが保持している、デバイス情報及びグループ情報のみを削除します。

工場出荷設定

本システムが保持している、デバイス情報、グループ情報、アカウント情報、ネットワーク情報、ログ、メール設定を削除します。

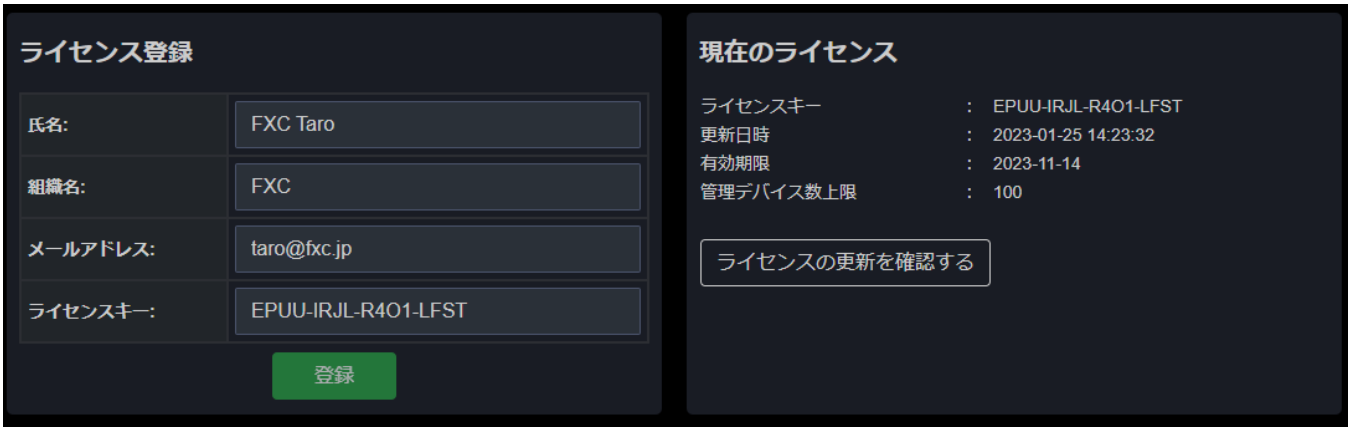
※ ライセンス設定は削除されません。
※ 工場出荷設定はネットワーク情報が削除され、本システムにアクセスできなくなる可能性があります。ご注意ください。

12.6.5 システム診断報告

「サポートに自動報告」ボタンを押下すると、本システムの診断データを作成し、サポートに自動的に送信します。

12.7 ライセンス

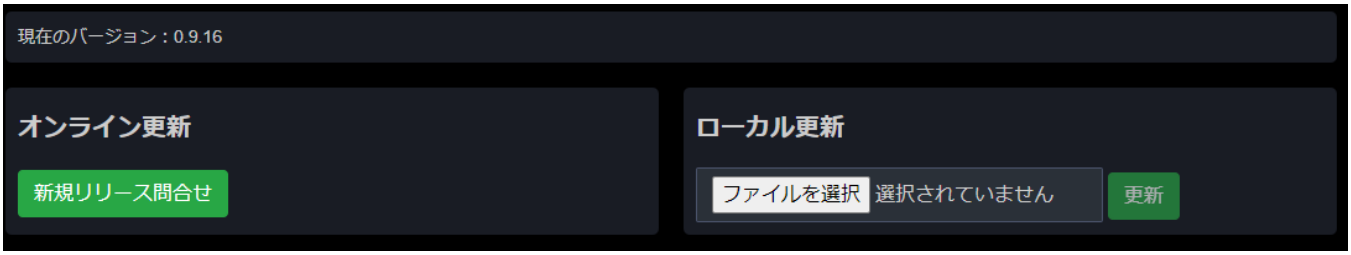
ライセンスページでは、現在のライセンス情報の閲覧と、ライセンスの更新ができます。



	項目	詳細
ライセンス設定	氏名	本システムの管理者名(255文字以内、英数字、記号、日本語入力可)
	組織名	本システムの管理組織名(255文字以内、英数字、記号、日本語入力可))
	メールアドレス	登録可能なメールアドレス
	ライセンスキー	当社より発行したライセンスキー
現在のライセンス	ライセンスキー	現在登録しているライセンスキー
	更新日時	ライセンスを更新した日時
	有効期限	現在のライセンスの有効期限 ※ ライセンス発行時にご契約する年数によります。
	管理デバイス上限	現在のライセンスで管理できるデバイスの上限 ※ ライセンス発行時にご契約する台数によります。

12.8 ソフトウェア更新

ソフトウェア更新ページでは、本システムの現在のバージョンの確認と、本システムのバージョンアップが可能です。



12.8.1 オンライン更新

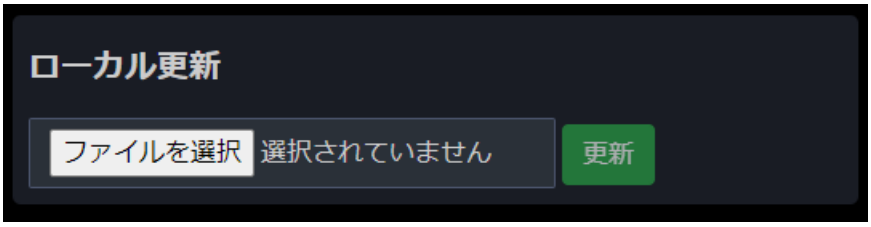
「新規リリース問い合わせ」ボタンを押下すると、現在お使いのバージョンより新しいソフトウェアがあるか問い合わせを行い、自動で本システムのソフトウェアを更新します。

オンライン更新を行う場合は本システムをインターネットに接続の上、ご利用ください。

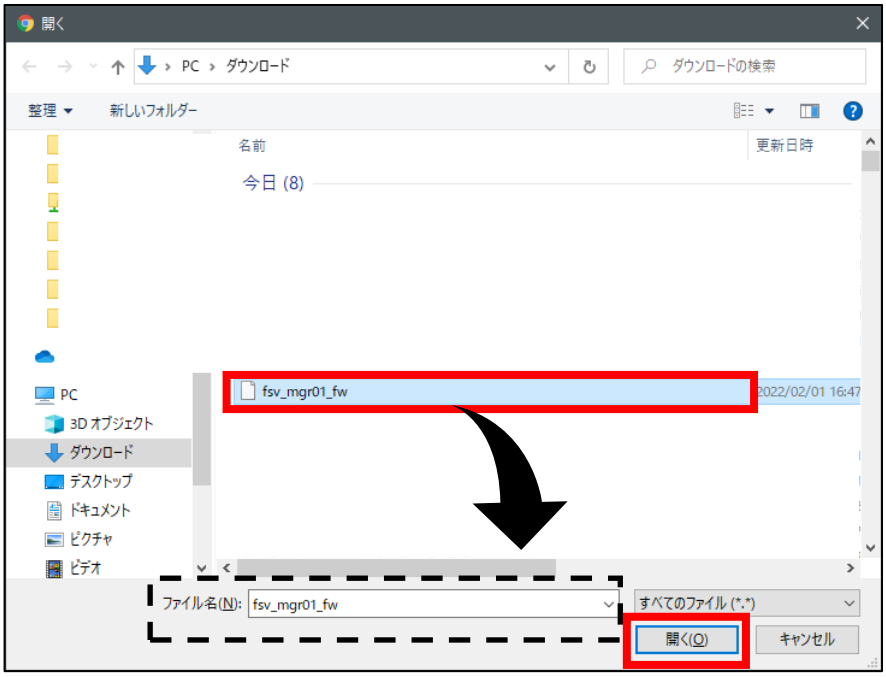
12.8.2 ローカル更新

ローカル更新は、管理端末に保存している本システムのソフトウェアを用いて、手動で更新を行います。

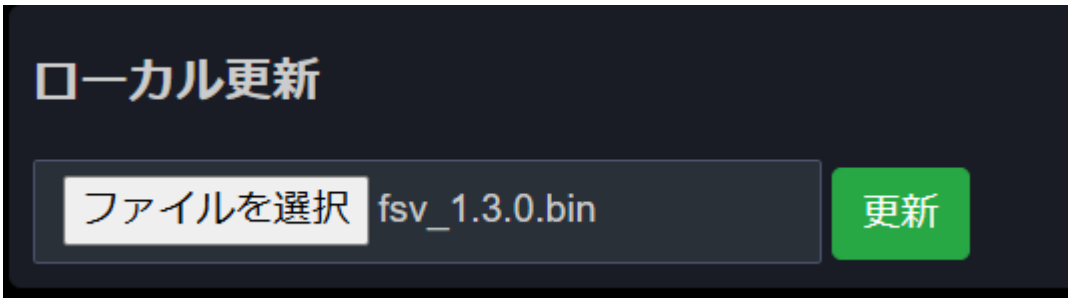
① 「ファイルを選択」ボタンを押下します。



② 管理端末上で本システムのソフトウェアを選択し、「開く」ボタンを押下します。



③ ②で選んだソフトウェアが表示されたら、「更新」ボタンを押下します。

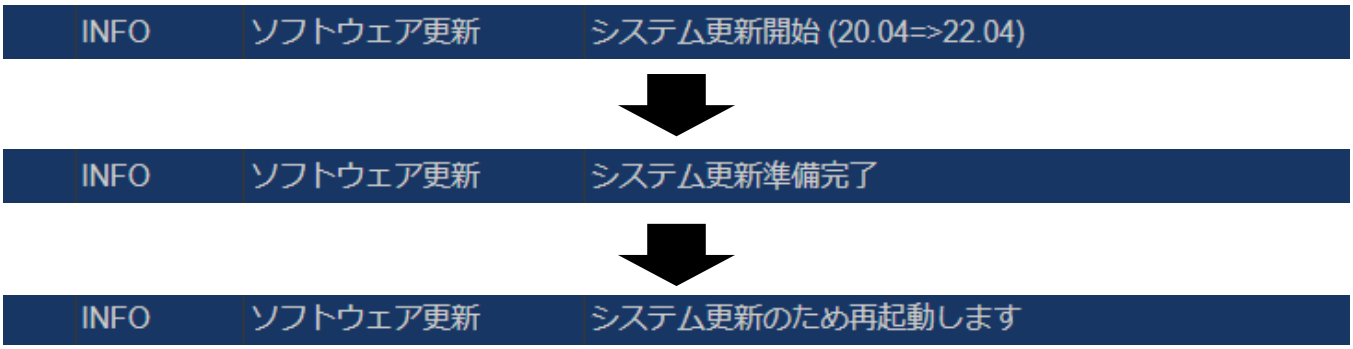


更新中は以下のように表示が遷移します。

12.8.3 オペレーティングシステムの更新について

本システムは機能向上およびセキュリティ確保のため、ソフトウェア更新の際にオペレーティングシステムの更新を伴う場合があります。

オペレーティングシステムが更新された場合は以下のようなログが記録されます。

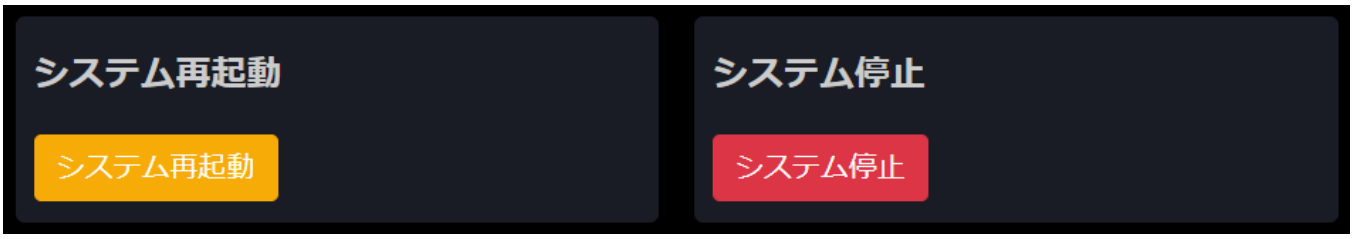


再起動の後、オペレーティングシステムの更新が行われ、およそ **30 分～1 時間程度**かかります。

この間、**機器監視機能が停止**し**本システムへのアクセスも不可**になります。

12.9 システム再起動・停止

本システムの再起動操作、および停止操作を行います。

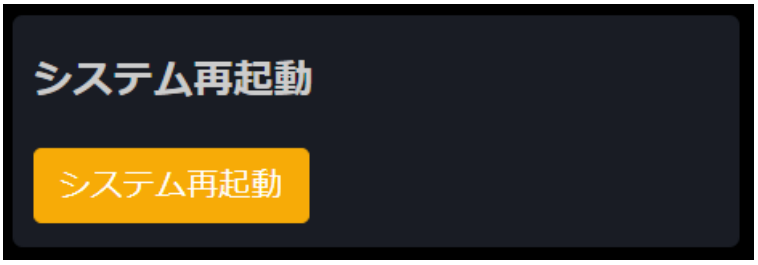


12.9.1 システム再起動

「システム再起動」ボタンを押下すると、確認メッセージが表示されます。

「OK」を押下すると、本システムの再起動が実行されます。

システムの再起動には数分かかります。起動後、自動的にダッシュボード画面に遷移します。



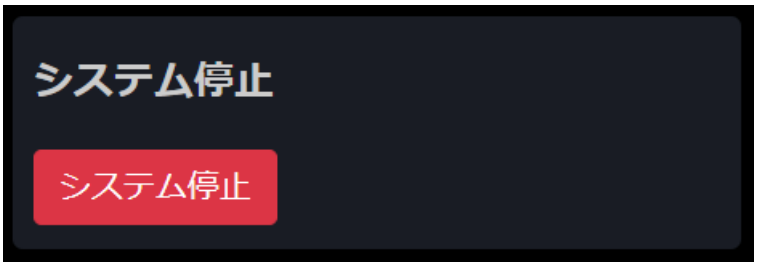
12.9.2 システム停止

「システム停止」ボタンを押下すると、確認メッセージが表示されます。

「OK」を押下すると、本システムの停止が実行されます。

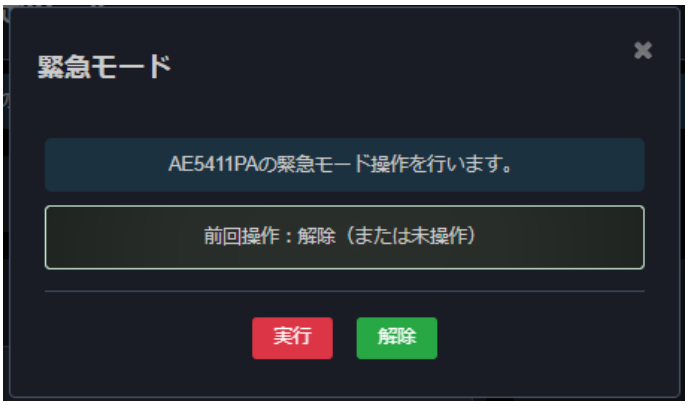
本システムの停止には数分かかります。

再度本システムを起動するには、ハードウェア本体の電源を入れる必要があります。



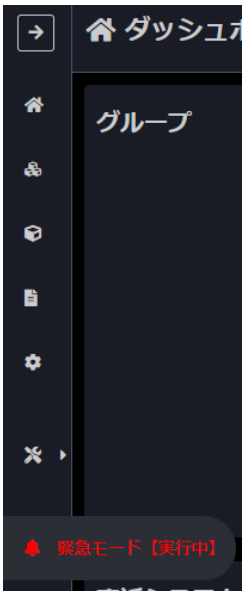
13 緊急モード

本システムの監視下に AE5411PA が登録されている場合、本モードを実行することによって、周辺に SSID が公開され無線接続が可能になります。
緊急モードの設定は、別途 AE5411PA のマネージメントガイドをご参照ください。



13.1 実行

① メニューから[緊急モード]を押下
② 緊急モード起動のポップアップ表示を確認後、[実行]を押下
※前回操作が実行の場合はサイドメニューの緊急モードが以下の表示となります。
メニューを展開している場合；　　メニューを折り畳んでいる場合：



13.2 解除

① メニューから[緊急モード]を押下
② 緊急モード起動のポップアップ表示が確認後、[解除]を押下

14 その他の機能

14.1 デバイス毎の死活監視通知機能

死活監視の通知は「通知除外設定」のほかに、
グループ毎、デバイス毎に通知の設定が可能です。

グループの死活監視通知の確認、設定は「グループリスト」を、
デバイスの死活監視通知の確認、設定は「デバイスリスト」を参照してください。

死活監視通知の設定における通知の可否は以下の通りです。

死活監視通知設定		デバイス		
		OFF	ON	Group
グループ	OFF	通知しない	通知する	通知しない (G_OFF)
	ON	通知しない	通知する	通知する (G_ON)

14.2 トラフィック超過検出機能

監視対象機器のポートごとのトラフィックを監視し、送信もしくは受信レートが設定した基準を超過した場合に通知、記録を行うことができます。
また、TACT を設定することでトラフィックの超過を外部機器に通知することもできます。

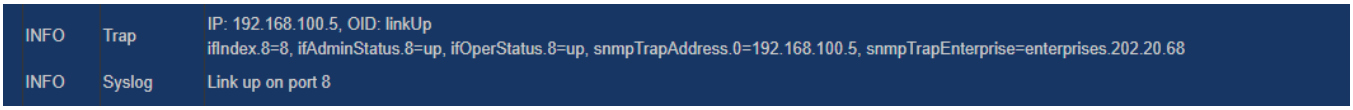
トラフィック超過検出設定については「ポート設定」を、
TACT 設定については「TACT(トリガアクション)」参照してください。

14.3 NTP サーバ機能

本システムは NTP サーバとして動作しています。
NTP クライアントの時刻同期先に本システムを指定することで、時刻同期が可能です。
なお、NTP サーバ機能を使用する場合は本システムをインターネットに接続してください。

14.4 SNMP Trap および Syslog の受信機能

本システムはクライアントから送信された SNMP Trap および Syslog を受信することが可能です。
受信の際はシステムログで発報を行います。
送信元が本システムに登録されているデバイスであれば、受信メッセージをデバイスと紐づけて発報を行います。



14.5 ホスト名によるブラウザアクセス機能

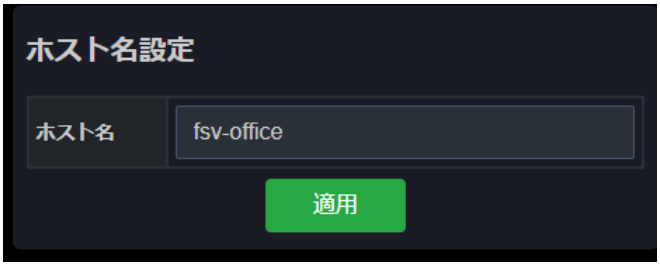
本システムはホスト名でのブラウザアクセスに対応しています。

初期ホスト名は「fsv-mgr01」です。
ホスト名の変更については「ホスト名設定」を参照してください。

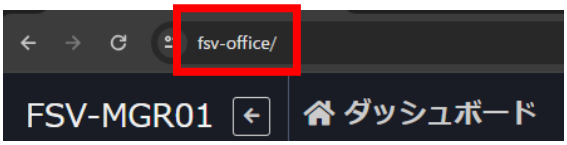
ブラウザのアドレスバーに、「 **http://(ホスト名)** 」、または「 **http://(ホスト名).local** 」の
(ホスト名)の箇所に設定したホスト名を入力して下さい。

注意事項:
※ Apple 社製の PC を使用している場合は、「 **http://(ホスト名).local** 」と入力してください。
※ HTTPS 機能を使用している場合は、「 http:// 」の箇所を「 https:// 」に変更して下さい。
※ 同一ネットワーク上に本システムが 2 台以上ある場合や、同一名称のドメイン名がある場合は、
ホスト名を重複しないよう設定してからアクセスしてください。
※ 本システムおよびアクセス端末が同一ネットワーク上にあることを確認してください。
基本的にルータを越えたアクセスはできません。IP アドレスにてアクセスしてください。
※ ホスト名を変更した後でも初期値である「 fsv-mgr01 」を使用してアクセスが可能です。
ホスト名を忘れた場合には「 fsv-mgr01 」へのアクセスを試してみる事をおすすめします。
ただし、同一ネットワーク上に本システムが 2 台以上ある場合、アクセスはどれか 1 つのみとなります。

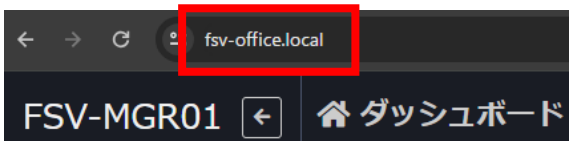
例) ホスト名を「 fsv-office 」に設定した場合



▼「 http(s)://fsv-office 」でのアクセス



▼「 http(s)://fsv-office.local 」でのアクセス



14.6 セキュリティ更新

本システムはセキュリティ確保のため、セキュリティに関する更新をインターネットから自動的に取得します。
これらの更新を適用するために自動的に再起動がかかる場合があります。
再起動後には以下のようなログが記録されます。

	INFO	システム	セキュリティ更新のため、本体の再起動を行います

15 トラブルシューティング

15.1 本システムの IP アドレスがわからない場合

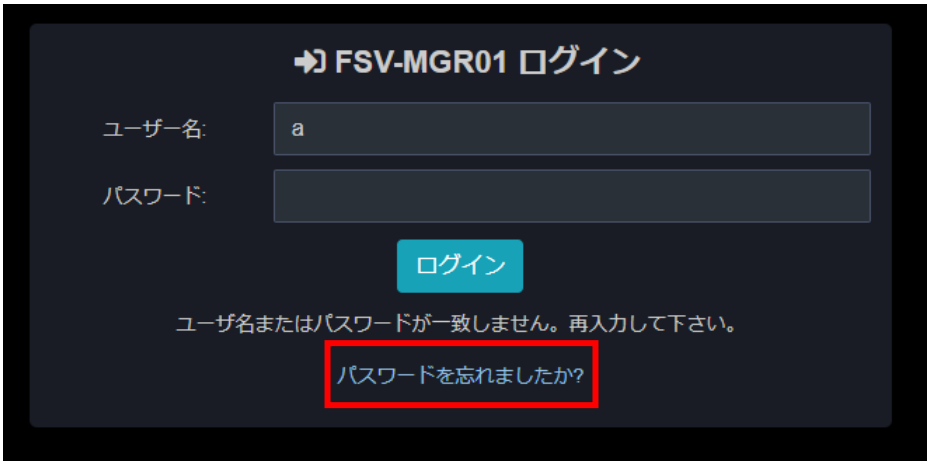
本システムの HDMI1 端子にディスプレイを接続することで、現在の本システムのホスト名および IP アドレスを確認することができます。

また、表示された QR コードからアクセス（IP アドレスでのアクセス）することも可能です。

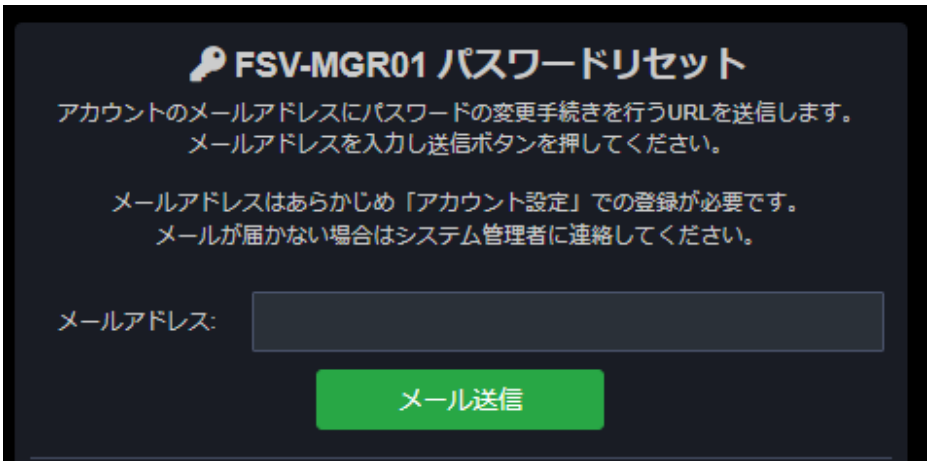
15.2 ログインパスワードを忘れた場合

ログインパスワードをお忘れの場合、パスワードリセットが可能です。
パスワードリセットを行うには事前にメールアドレスの登録が必要になります。
メールアドレスの登録は「アカウント」をご参照ください。

① ユーザ名とパスワードを間違えログインボタンを押した後、ログイン失敗時に表示される［パスワードを忘れましたか?］をクリックします。



② パスワードリセットしたいアカウントのメールアドレスを入力します。



③ 入力したメールアドレス宛に届いたパスワードリセット用の URL から新しいパスワードを設定、
[パスワード再設定]ボタンを押下します。
※URL の有効時間は 24 時間となります。

④ 下図が表示されたら再設定完了です。

ネットワーク機器統合管理システム FSV-MGR01
ユーザーズマニュアル
発行月：2025年2月
発 行：FXC 株式会社 東京都台東区浅草橋3-20-15 ミハマビル7F